

甲南大学経済学部入学おめでとうございます!

入門のしおり

2015

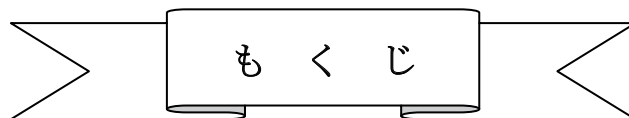
No.

Date

how long, how long will I slide
separate my side, I don't, I don't believe it best.
Slide my shoes die all I ever.
I heard your voice through a photograph.
I thought it up it brought up the past.
Once you know you can never go back.
I've got to take it on the other side. Conscience are what it
means to me. A conscience where I'm moving the sea.
Stranger things could never change my mind. I've got to
take it on the other side. Take it on. Take it on.
Pour my life into a paper cup. The ashtray's full and
I'm spillin' my guts. She wants to know on I will she
scarlet scarlet and she's in my bed. A candidate
for my soul more blood. Push the trigger and pull
the thread. I've got to take it on the other side
Take it on the other side. Turn me on take me for
a hard ride. Turn me out leave me on the other side

KOKUYO LOOSE-LEAF J-SHEET 6 mm A4B3 X36 Sheet

甲南大学経済学会



まえがき	1
I 経済学部へようこそ	3
甲南大学経済学部 新入生のみなさんへ 経済学部長 小山直樹	5
各経済学部教員（五十音順）	7
II 経済学部の先生方に質問（五十音順）	29
III 新入生へのメッセージ	77
「よく学びよく遊べ」 吉村寿豊	79
IV 新入生のみなさんへ	81
甲南大学経済学会について	83
V 甲南大学経済学会会則	87
総会規程・評議員会規程	89
卒業生会員細則	90

まえがき

入学生のみなさん、甲南大学経済学部へのご入学おめでとうございます。みなさんは、本学に入学し、経済学部生となると同時に、規約によって、《甲南大学経済学会》の会員となることになっています。みなさんが手にしたこの小冊子は、新入生を対象として作られた経済学部への案内書です。

この小冊子は、みなさんが経済学を学んでいく実際のある場を構成する甲南大学経済学部の教員、学生、そして、卒業生の方々の声で「経済学とその周辺を語る」という内容になっています。新入生のみなさんは大学に入学したばかりでまだ経済学部のことがよくわからないと思いますので、この冊子を読んでぜひ参考にさせていただければと思います。

『Ⅰ 経済学部へようこそ』では、経済学部の先生方に様々な視点から、新入生の皆さんへメッセージをいただいています。先生ならではの経験から得た言葉が、皆さんのこれから始まる大学生活の糧になればと思います。

『Ⅱ 経済学部の先生方に質問』では、経済学部の先生方から、素朴な質問に対する答えをいただいています。このページを見ることで、甲南大学経済学部の先生がどんな方々であるのかということが少しはわかるのではないのでしょうか。「あの先生がこんな回答をしている」といった意外な発見ができるかもしれませんし、講義やゼミナールを選択する際の参考になるかもしれません。

『Ⅲ 新入生へのメッセージ』では、甲南大学経済学部を卒業された方々からメッセージをいただいています。みなさんの先輩方はどのようなことをおっしゃっているのでしょうか。

『Ⅳ 新入生のみなさんへ』では、「甲南大学経済学会」という組織について紹介しています。甲南大学経済学会とは、経済学部の教員・学生・卒業生が対等の権利を持って運営している自治組織です。新入生のみなさんの中には、「経済学会という組織はまだ何のことかわからない」という人が多いかもしれません。そこで、「経済学会ってなんだろう？」というみなさんの疑問に対して、経済学会の具体的な活動やみなさんの交流の場である「経済コモンルーム」についても紹介しています。

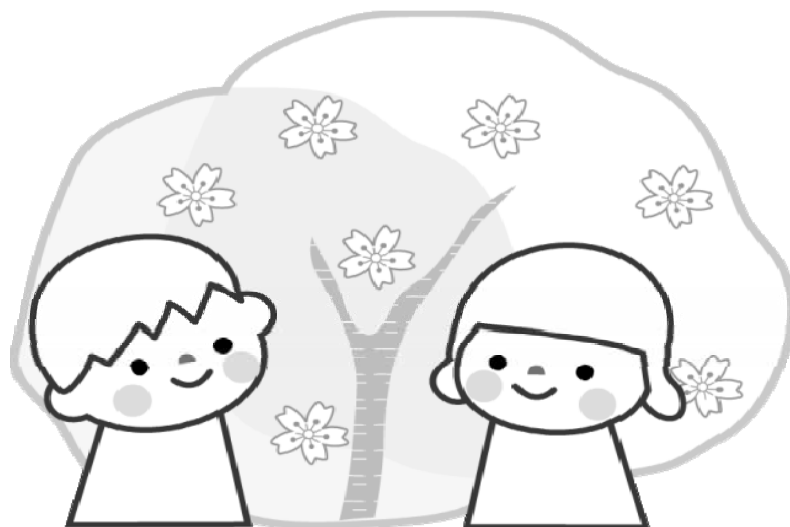
はじめから読んでいく、好きなところだけ読むなど、利用方法はみなさんの自由です。この小冊子がみなさんの大学生活の手助けになれば幸いです。

2015年4月

甲南大学経済学会
評議員編集委員一同

経済学部へようこそ！

小山 直樹先生	5	高 龍秀先生	18
青木 浩治先生	7	小林 均先生	19
足立 泰美先生	8	杉村 芳美先生	20
石川 路子先生	9	柘植 隆宏先生	21
石田 功先生	10	筒井 義郎先生	22
市野 泰和先生	11	寺尾 建先生	23
稲田 義久先生	12	中島 清貴先生	24
上島 康弘先生	13	林 健太先生	25
永廣 顕先生	14	平井 健介先生	26
岡田 元浩先生	15	村澤 康友先生	27
奥田 敬先生	16	森 剛志先生	28
春日 教測先生	17		



甲南大学経済学部 新入生のみなさんへ

経済学部長 小山 直樹

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

これから卒業まで、みなさんは大学生（甲南大経済学部生）として過ごすこととなります。1年次生（1回生）の間は、見るもの、聞くもの、あらゆることが未体験という生活が続くでしょう。2年次生（2回生）になれば、いっぴしの甲南大生としての自信と自覚を身に着けていることと思います。また、3年次生（3回生）・4年次生（4回生）の頃には、世の中における自分の立ち位置を考え始めることでしょう。みなさんの先輩たちも皆、そうやって少しずつ成長していきました。試行錯誤、切磋琢磨、大学生としての毎日はそうしたことの連続となるでしょう。しかし、それが普通のことなのです。

経済学部生として心がけていただきたいのは、まず、自分のごく身近なことだけでなく、広く世間で起きている様々な出来事にできるだけ関心を持つことです。己が見聞きできる範囲の経験だけから知ることができるのは、広い世間で起きている出来事すべてのほんの数パーセントに過ぎません。自分を取り巻く経済社会をしっかりと理解するには、身近な経験だけでは到底足りません。こうした不足を補うためには、新聞やテレビのニュース、その他のレポートなどから有用な情報を幅広く知覚していく必要があります。

みなさんが所属する経済学部では、複雑かつ変化の早い現代社会について理解するために、どのような観点に着目するのが良いのか、知覚できた情報をどのように解釈するのが適切か、社会の動きを予測するにはどのような考え方が効率的か、など『経済社会を観る眼』を、入門レベルから段階的に（入門→中級→上級）学ぶこととなります。

みなさんが学習することになる経済専門科目は、6つの科目群（理論・情報、財政・金融、公共経済、国際経済、産業・企業、歴史・思想）に分類されています。また、それぞれの科目群は、基礎・入門→中級→上級といった具合に段階的に学べるよう科目が在籍年次ごとに整理されていま

す。このような経済専門科目の履修メニューのことをカリキュラムといいます。みなさんは、カリキュラムに従い、それぞれの興味・関心に応じて、経済について体系的に学ぶことができます。

ところで、高校までの授業では、教科書・ノート・参考書・問題集などを手本にして、みなさんは「学ぶ＝知識を身につける」という学習を繰り返してきたと思います。こうした学習は、大学などで学ぶ高等教育を享受するうえでの前提条件と言えますが、それだけでは宝の持ち腐れでもあります。みなさんが高校までに獲得した知識（基礎的教養）と、大学の講義で学ぶ知識（専門知識）を有機的に活用して、「今、自分が生きている経済社会がどうなっているのか、これからどう動くのか」を、自分の頭で考える（考えられる）能力を養成することが甲南大学経済学部における学びの中心課題です。みなさんは、1年次における基礎ゼミ、2年次におけるゼミⅠ、3年次におけるゼミⅡ、および4年次におけるゼミⅢという科目で、こうした「自分の頭で考える」というトレーニングを積むことになるでしょう。また、これらゼミでは、チームを組んで課題に取り組む **joint research** のノウハウを学ぶことができます。みなさんが社会人として会社などで働くとき、こうしたチームで課題に取り組む経験は必ず役立つことでしょう。

なお、経済学部では、ゼミ以外の様々な科目においても、自分の頭で考える能力の養成やチームで課題に取り組むこと等を授業内容に組み込んだアクティブ・ラーニングを積極的に推進しています。

みなさんは、これから経済について体系的に学習し、学んだ知識を有機的に活用するための「自分の頭で考える」能力、「チームで課題に取り組む」能力などをトレーニングしていくことになると思います。こうしたトレーニングはみなさんの知的スキルをアップさせ、卒業後、みなさんが社会人として活躍することを支える原動力となるでしょう。

私を含めて経済学部のすべての教員は、みなさんの経済学での学びをしっかりとサポートしていきます。新入生のみなさんが甲南大学経済学部で有意義な時間を過ごし、夢を掴むために、大きな成長を遂げうることを心から祈っています。

新入生の皆さんへのメッセージ

青木 浩治

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんはどのような抱負を持って入学されましたか？あれもこれもとやりたいこと一杯の人から、まだ何も決めていない人まで様々でしょう。しかし、まずやるべきことは友達作り。この作業に失敗すると、大学4年間はずまらない時間となり、大学生生活不適應者に陥ってしまうと言っても過言ではありません。

第二に強調したいことは、大学4年間はあるという間に過ぎてしまうということです。このことはみなさんの先輩が異口同音に言っていること。言い換えれば、大学生活はとても楽しく、おそらく人生において最も有意義な期間だということです。そのための仕掛けが大学にはあちこちに用意されています。なにもせずボーっと4年間を過ごした人は社会に入る手前でイエロー・カード、場合によってはレッド・カードが突き付けられます（その意味はやがて分かってきます）。意識して「大学でこんなことした、あんなことした」と胸を張って言えることを見つけて下さい。ただし、アルバイトはほどほどに・・・。

第三に、当然のことなのですが、自分の規律付けを怠らないようにしましょう。これまで親や先生の言われる通りしていればよかった時期はもうおしまい。大学では所定単位の修得以外に学生に課される制約は特にありません。その意味で自由なのですが、同時に選択の結果に対する責任を強く要求されます。自由には責任がついて回ることを意識しましょう。その訓練をする場が大学生活です。そして第四に、社会常識を付けること。犯罪行為は論外として、やってよいこととそうでないことのケジメを付けるようにしましょう（喫煙マナーがその一例）。

いずれにせよ、皆さんの4年間が有意義であることを切に願っています。

新入生の皆さんへのメッセージ

足立 泰美

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆さん4年間の大学生活、これまでの学業生活とは異なる点が幾つもあります。その1つがスケジュール管理です。今までは、学校から決められた時間割りをこなす毎日だったのではないのでしょうか。1時間目は数学、2時間目は国語といった時間割りが既に組まれた小学校、中学校そして高校生活。しかし大学生活は違います。スケジュールは真っ白です。その白紙のスケジュールに、自分だけの予定表を創り出していきます。

まず受講科目の登録が最初にあります。学士を取得するために、最低でもどの科目を、何単位履修しなくてはいけないのか。1年目には何を修めおかねばならないのか、2年目にはどの科目を選択しておくのがよいのか、3年目は1年目と2年目で培われた知識をどう発展させていったらいいのか。シラバスを読み進めながら大学の所定の規定を理解し、興味のある科目、勉強してみたい科目もしくは単位のとりやすい科目を調べ、選択し、そして自分だけの唯一の時間割を作成します。その時間割を踏まえて、アルバイトや多様なサークル活動などのスケジュールを入れていきます。

一日、一週間そして一月、自分が決めたスケジュールで生活を繰り返し送り、大学生活から就職に視点を向ける時には、この時間の積み重ねが、おもいおもいの力となります。そこには一日 24 時間という制約された条件のなかで、自分の拘子定規で何に時間を投入するかを選択し、一定の成果を見いだそうとします。つまり、自分の選択が大学生活4年間の学業の蓄積と多様な見識となり、将来への道に繋がる原動力となります。

どうぞ新入生の皆さんが、この4年間を有意義に過ごし成長することを切に願っています。

自由になること

石川 路子

大学に入学し、新たなスタートを迎えた皆さんは今どのような気持ちを抱いているでしょうか。期待に胸を膨らませている人もいれば、多少の不安を感じている人もいるかもしれません。ただ、みなさんに共通して言えることは、これまでの生活に比べ、すべての人がより多くの「自由」を手に入れることになること。どんな授業を取るのか、どの部活・サークルに入るのか、そしてどんな友人と過ごすのか、すべてはみなさんに任されています。大学で過ごす日々は人生の中で最も自由に生きることのできる貴重な時間と言えるかもしれません。

ところで皆さんは、今、勉強をするか、遊ぶかという2つの選択肢が与えられた時、どちらを選ぶでしょうか。ほとんどの人が「遊ぶ」を選択するかもしれませんね。経済学では、人間は複数の選択肢が与えられた場合、その選択肢を選ぶことによって得られる利益（お金だけではなく、楽しい気持ちも含まれます）と費用（もちろん嫌な気持ちも費用です）を瞬時に計算し、利益から費用を差し引いた、純利益が高い方を選択していると考えます。すなわち、上の2つの選択肢で「遊ぶ」と答えた人は、遊ぶことによって得られる純利益の方が、勉強をすることによって得られる純利益を上回ったから、ということができるのです。

では、この質問を「今」ではなく「試験前」に聞かれたらどうでしょうか。「遊びたいけど、試験があるから」といった理由で勉強することを選択する人が増えるでしょう。実は人間はその時に得られる利益だけではなく、将来得られる利益も考えて行動しているのです。

大学に入学すると、自由になる分、選択の機会が増えていきます。この時に必要なのは将来の目標です。目標がなければ目先の利益だけで判断してしまいがち。目標に向かって今の自分の選択肢を決めることで、将来さらに自らの選択肢を増やすことができるのです。みなさんがさらに大きな自由を手に入れることができるよう、充実した大学生活を過ごされることを願っています。

ブラック＝ショールズ方程式

石田 功

経済学部の新入生の皆さんの中には「数学が苦手だけれど大丈夫だろうか？」と心配している人もいるかもしれませんが、正しい心配の部分と、杞憂の部分があるのではないかと思います。所得、物価、失業率といった数量を扱うので、 $y = a + bx$ のような簡単なものは入門科目でもでてきます。数式アレルギーであれば多少は克服の努力が求められるので「正しい心配」でしょう。

どのあたりが杞憂かですが、まず、金融商品の価値を知るために用いられるブラック＝ショールズ方程式と呼ばれる次式を見て下さい：

$$rC = \frac{\partial C}{\partial t} + \frac{1}{2}\sigma^2 S^2 \frac{\partial^2 C}{\partial S^2} + rS \frac{\partial C}{\partial S}$$

『世界を変えた 17 の方程式』（イアン・スチュアート著）という本で、ピタゴラスの定理やニュートンやアインシュタインが導いた数式と並んで人類史上最も重要な数式のひとつとして紹介されているほどで、金融市場の発展に大きく貢献しました。ただ、この式やそのより進化したバージョンを理解して実務で使いこなすためには高度な数学の道具が必要なため、今では先端的金融技術の分野は理工系大学院出身者で占められています。杞憂を増幅するようなお話ですが、お伝えしたいのは、このように高度な数学の利用が稀な成功を収めているサブ分野ですら、数学はあくまで道具で、考え方の中核の部分は直観的にも理解できる経済学的な洞察だということです。例えるなら、上式の C は福袋の価値です。売っているショップのタイプ、袋の大きさからある程度察しはつきますが、中を見ないと正確なところはわかりません。式を導出した研究者たちは、袋のなかに S 円の商品と r 円の商品がそれぞれ何個入っているかを見破ることにより、福袋の正確な価値を求めました。経済学部の授業では（金融のように数学がストレートに役立つ分野でもそうですが、他のたいていのサブ分野ではなおさら）数式の利用は必要最小限に抑え、直観的な議論を重視することが多いので、「経済学＝理系」的な面を過度に恐れる必要はないでしょう。

僕らはどんどんダメになる？

市野 泰和

2006年12月12日、読売新聞から配信された記事をちよつとだけ引用します。

「各地の公立図書館で、雑誌などから写真や記事を切り取ったり、専門書に蛍光ペンで線を引いたりするなど、図書を傷つける行為が増加している。(中略)公共の財産を傷つけてはいけないという最低限のルールを破る行為の横行に、図書館側は『社会全体のモラル低下の表れでは』とため息をついている。」

この記事で図書館の人たちが嘆くように、社会全体のモラルは、低下してきているのでしょうか。時代が進むほど、人々のモラルは低くなるのでしょうか。って、そうだとすると、昔の人は、今よりもずっと徳が高かったということなのかな？縄文時代の人とか。土器？どんどんあげちゃうよ、いくらでも持ってっちゃっていいよ、なんてね。まあ、縄文時代の話はさておき、僕らは、どんどんダメな人になっていってるのでしょうか。そうなら、それはとても悲しいことですよ？

なので、ここはひとつ、そうじゃないかも、と考えてみましょう。社会全体のモラルはまったく低下していない、と想定してみましょう。それで、「図書を傷つける行為が増加している」という現象を説明することはできないでしょうか。

例えばこんなの。「公共の財産を傷つけてはいけないというルール」を守れない人は、残念ながら、いつの時代も人口の一定割合はいます。もしかしたら、最近の図書館は、昔の図書館よりも、そういう人々を図書館に来さしてしまうようなものになってしまっているのかもしれない。あるいは、図書館に来る人々のタイプは昔と同じとしても、最近の図書館では、昔の図書館よりも、「公共の財産を傷つけてはいけないというルール」を守らせるようなしくみが、うまく機能していないのかもしれない。つまり、変わったのは人々のモラルではなく図書館だったとしても、「図書を傷つける行為が増加している」という現象は説明可能なのです。

人々の性質が変わったから、という理由で、人々の行動が変わったことを説明するのは、とにかく簡単です。そんなの、いつでもできます。だからこそ、そういう説明は、できる限りしないでおきたいのです。最後の手段にとっておきたいのです。人々の性質ではなく、人々を取り囲むもの、環境で、何か変わったものはないかを考えてみましょう。それで、人々の行動の変化を説明できないでしょうか。正しいか間違っているかはさておき、つねに、人の内側ではなく、人の外側に、行動の変化の理由を求めること。これが、経済学の基本的な態度です。

訪日外国人の消費と関西経済

稲田 義久

関西の域内総生産（以下 GRP）の全国シェアは長期低下トレンドから脱出できておらず、結果的に 16% 経済に甘んじている。この成長停滞から脱するために成長戦略が盛んに議論されており、関西の特長を生かした成長戦略としてライフ関連産業とともにインバウンド観光産業の関西経済牽引役割が注目されている。

確かに 16% 経済と低迷しているが、対アジア露出度が高いことが関西経済の重要な特徴の一つである。この特徴に加え、この 3 年の関西経済を取り巻く環境の変化の影響は大きく、強いフォローの風となっている。すなわち、1) アベノミクスの第一の矢により為替レートは 80 円から 120 円へと大幅下落したが、これは外国人にとって日本での購買所得が 1.5 倍になったことを意味する。2) 入国ビザ条件が順次緩和されたことに加え、3) 関西国際空港における LCC 就航が大幅拡大した。これらが、関西への訪日外国人大幅拡大へのモメンタムとなったことには疑いがない。結果、2013 年の関西への訪日外国人シェアは 23.7% となっている。

産業連関表を用いたわれわれの推計によれば、2013 年の訪日外国人消費は関西全体の名目 GRP を 0.33% 程度引き上げたようである。ただ関西各府県に与える影響は各府県で大きく異なる。京都府は 0.72%、大阪府は 0.36% それぞれ名目 GRP を引き上げたが、奈良県は 0.14% の貢献にとどまっている。京都府と奈良県では同じように多くの国宝や重要文化財などの観光資源を持っているが、観光資源の賦存量が同じように外国人誘致に繋がっていない。各府県がハード及びソフトの観光インフラを充実させることにより、インバウンド観光の経済的効果を高める可能性があるといえようが、このような政策を個別各府県が同じように追求するのは効率的ではない。むしろ **variety** で **diversity** に富む関西圏では、京都を中心に外国人観光客の回遊性を高めることで全体としての経済効果の底上げを期待できるといえよう。本推計はそのような含意を示している。

リトマス試験紙

上島 康弘

先日、「100分 de 名著」という番組で、作家の小川洋子さんがアンネ・フランク『アンネの日記』を紹介していた。ナチス占領下のオランダでユダヤ人狩りにおびえる暗澹たる話だと思っていたが、実は思春期の女の子の成長記録だと言う。本屋で買ってページをめくると、たしかに、アンネがペーターと恋に落ちて、初キスをして、***を経験するまでの心のうちが吐露されている。印象的だったのは、父親に対するアンネの感情である。13歳のころは「ママなんかよりパパのほうがずっと好き」だったのに、15歳になると「ひどく煩わしく感じる」存在へと落ちぶれる。年頃の娘をもつ父親には必読書である。

私の興味は、人の心の動きにある。気高く自立した人が困難な境遇でどう考えるのかは、文字にしてもらわないと分からない。シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』は読み返す本の一つだが、通勤途中でしずかに読みたくなって、淀屋橋のベンチに座って読んでいたら講義に遅れた。目の前を行きかうサラリーマンよりも、19世紀のイギリスで貧しい孤児院に入れられた女の子に共感するのはなぜだろう。国のちがいより、人としての本性を感じる。とは言え、シャーロットの妹エミリーの書いた『嵐が丘』では、ヒースクリフのストーカー行為にたじろいだ。

近ごろ、ジェイン・オースティン『自負と偏見』の新訳が出たので再読している。西欧人は人の気持ちにうといと言うが、これは小社会の人間模様を的確に描いて笑わせる。おそらく世界で一番読まれた小説だろう。私はこの本をゼミ生にすすめるが、精神的に成長した学生からは例外なく「おもしろかった」という感想が返ってくる。オースティンの本は、自分が「大学生」にふさわしい内面をもつかを知るリトマス試験紙である。

「大学生」でなくても、フランク・マコート『アンジェラの灰』は大いにたのしめる。これは、1930年代のアイランドで、飲んだくれの父親と生活に疲れはてた母親のもとで小学生として生き抜いた回想録である。貧と病で弟と妹を失う悲惨な日々のなかに、腹の皮がよじれるほど笑えるエピソードが満載である。とくに、同級生どうしの口の悪さには吹き出してしまう。この本を読むと、本当に「裕福な子供時代には何の意味もない」と思えてくる。と同時に、あまりのみじめさに泣けてくる。貧しい子供の心情と屈辱感を忘れないでいたい。

次の海外旅行では、オランダでアンネの隠れ家を訪ねて、イギリスの文豪の生家をまわり、その足でアイランドに渡ってシャノン川のほとりを歩くつもりだ。

「経済を学ぶ」ということ

永廣 顕

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんはこれから4年間、経済について学んでいくこととなりますが、そもそも経済とはいったい何なのでしょう。

私たち人間（ヒト）は、生きていくために必要な財やサービス（モノ）をつくらなければなりません。現代においては、家計（個人）が企業に労働や土地を提供し、企業がモノを生産しています。家計は企業から受け取った賃金など（カネ）でモノを購入し、それを消費して生活しています。この状況を「市場経済の成立」と言いますが、市場経済はいつもうまく機能するわけではなく、程度の差こそあれ混乱が生じることがあります。そこで、政府が家計と企業をまとめて市場経済を統治しています（この政府の活動を“財政”と呼びます）。このように、経済とは、人間が生きていくための活動であり、それをめぐる家計・企業・政府の相互関係にもとづいたヒト・カネ・モノの動きなのです。すなわち、私たち人間の生活の営みそのものなのです。

したがって、「経済を学ぶ」ことは「生き方を考える」ことにつながると言ってもよく、「生き方を考える」ためには経済について幅広くしっかりと勉強しておくことが必要となるのです。それは、これまでの受験勉強のように正解とされていることをただ暗記するだけではなく、自分が置かれている現在の状況と自分が進もうとする将来の目標に即し、自分にとって何が正解であるのかを追究し続けるということなのです。

もちろん、大学生活においては、勉強がすべてではなく、クラブ・サークル活動やアルバイト、ボランティア活動やインターンシップ、さらには就職活動なども重要であることは言うまでもありません。これらの活動から学ぶことがたくさんあるのも事実です。しかし、経済について体系的に勉強する機会を大学以外で得ることは難しいでしょう。自分の興味や問題関心から専門的な勉強を思う存分できるのは大学での4年間だけなのです。しかもその4年間はあっという間に過ぎてしまうのです。

大学生活のスタートラインに立ったみなさんが、有意義な4年間を過ごせることを心から願っています。

学生生活の最終段階に達したみなさんへ

岡田 元浩

甲南大学経済学部入学おめでとうございます。さて、おそらくみなさんの大半にとって「甲南大学経済学部卒業」が最終学歴になることでしょう。つまり、甲南大学での学生生活を完了すれば、みなさんは社会人として巣立っていくということです。ひとたび社会人としての生活が始まれば、みなさんを待ち受けているのは、俗に世間の荒波と呼ばれる厳しい現実です。社会人になったからといって、ご家族をはじめ、それまで皆さんを守り育ててきた人々の支えがいきなり断ち切られるわけではありません。しかし遅かれ早かれみなさんは、矛盾や悲痛、その他あらゆる困難に満ちた世の中を自らの力によって生き抜かねばならぬこととなります。だからといって、私たちが自分1人の力だけで生きることは不可能です。そこで肝腎なのは、強い自立心と正しい認識に立つ他者との協同精神です。甲南大学での学生生活でみなさんに身につけてほしいと思うもの、というよりも身につけるべきものは、つまるところ以上の点に尽きる、というのが私の思いであり、この観点から実際にみなさんと接するよう努めています。私がこう記すと、社会人としての準備が大事だというのであれば、何より就職だ、学業より就職準備優先で1年生時から臨むべきだ、と解釈する人がいるかもしれません。しかし、それはあたかも、もろい土台の上に家を築くようなもので、一時的にはうまくいっても、やがてはくじかれる破目になるでしょう。就職を含むみなさんの将来のためにも、まずは日々の学業を地道に修め、さらには課外活動をはじめ大学時代ならではの体験に打ち込んでください。

講義の単価？—エレガントな答案を求む—

奥田 敬

【設問】

大学における1コマ90分の講義の(学生にとっての)単価を算出せよ。
ただし、単純化のため、4年間の学費総額は教科書代も含めて400万円とし、その間の生活費や、働いていれば得られた収入は度外視する。

【解法1】

全く無駄なく、最小費用最大便益(?)で卒業を目指す。
卒業所要単位数は128単位であるから、
1単位あたりの単価は、 $4,000,000 \div 128 = 31,250$ (円)
半期15週で2単位なので、
 $31,250 \times 2 \div 15 = 4,166.66\dots$

答え 約4,200円

【解法2】

もったいないから(単位制限とは関係なく)聴講しまくる。
1週間30コマならば通年で
 $30 \times 15 \times 2 = 900$ (コマ)だから、
 $4,000,000 \div (900 \times 4) = 1,111.11\dots$

答え 約1,100円

【解法3】

4年分の在籍料と割り切り、出席は(留年も)気にしない。
1日あたりの在籍料は、
 $4,000,000 \div (365 \times 4) = 2,739.72\dots$ (円)
90分あたりに換算すると、
 $4,000,000 \div (365 \times 4) \div 24 \times 1.5 = 171.23\dots$

答え 約170円

(さて、あなたはどれを選びますか？ 別解があればお知らせください。)

「常識」を疑ってみよう

春日 教測

私が高校生の頃を振り返ってみると、教科書はほぼ正しいもので、特に疑うこともなく文章や数式を理解し、また史実や言語を暗記し忠実に再現することが、学校での主要な課題だったような気がします。でも注意してみると、実際の世の中には不思議な記述や「常識」と異なる現象が多いことに気がつきます。

例えばサッカーの試合で「エースストライカーが点を入れた試合は負けない」という『神話』が紹介されることがあります。ですが、誰の得点であれサッカーの試合での1点は非常に大きい意味を持ちますから、その時点で既に1点獲得しているチームの勝率が高くなるのは、それほど不思議なことではないのではないのでしょうか。またある医療ドラマでは、急患死亡率0%の病院Aと50%の病院Bあり、実際にその病院を知る患者が信頼しているのは病院Bだという事例が描かれていました。一見すると不思議な現象ですが、実は病院Bではどんな患者でも最後まで救命に尽力する姿勢なのに対し、病院Aでは重症度が高く死亡率の高そうな患者の受け入れを徹底的に拒否しているためだという内容を見て、視聴者は納得することになります。大人気漫画ワンピースでは、時に「行き過ぎた正義」を行使する赤犬元帥率いる海軍と、破天荒ですが世間のしがらみにとらわれず自分の感情に素直に行動するルフィ率いる「善良な」海賊団が描かれていますが、こうした「常識」とのギャップも、大きな魅力の一つになっていると言えるでしょう。

経済学に代表される社会科学を学ぶ者として、このような「常識」を疑う目を持ち、常にいろいろな解釈や別の捉え方を考えてみるのが、最も大切なことだと個人的には考えています。いわゆる「ツッコミの文化」を有する関西圏で生活する我々は、経済学、ひいては社会科学全般に携わるのに向いているのかもしれませんがね。皆さんも、周囲の出来事に絶えずツッコミを入れる習慣を、是非身につけてください。ただやりすぎると疎まれるので、くれぐれも周囲の空気を読むことを忘れずに！

新入生のみなさんへ

高 龍 秀

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんを心より歓迎します。新入生になってみなさんは多くの夢と希望を持っていることと思います。大学に入ってその夢に一步步近づいてほしいと思います。

大学に入って、まず、世の中で起こっていることに関心を持って下さい。日本では 2011 年に大震災と原発事故があり、その後もなかなかデフレ・不況から抜け出せない状況にありました。2012 年末に安倍政権が発足し、「アベノミクス」の名の下に日本経済をより良くするための政策がいろいろと議論され実行されています。どのような経済政策を行えばこのデフレを克服することができるのでしょうか。みなさんが就職活動をする頃には日本の景気は良くなっているのでしょうか。世の中を見渡せば、このような複雑な問題がいっぱいあります。それは仕方ありません。私たちの住んでいる現代社会がとても複雑だからです。

みなさんが入った経済学部ではこの複雑な現代社会について、入門的な課題から 1 歩ずつ学んでいきます。みなさんの勉強の対象となる現代の経済は複雑ですから、「答えを簡単に求めない」ことが大切です。大学受験までは、「1 つの決められた答えにいかにか早くたどり着くか」という勉強スタイルだったと思います。例えば社会系の科目では「覚える」科目が多かったと思います。しかし最初に述べた現代経済の問題では、答えは決まっていないものもあります。また、答えが 1 つでないものもあります。ですから大学では、基本的な事実を「覚える勉強」とともに、その知識を武器により複雑な現象を論理的に考えていく勉強をしなければなりません。そのような勉強を 2 年生以上のゼミナールなどの科目で行うこととなります。そこでは答えを簡単に「見つける」勉強ではなく、これまで学んだ知識をもとに時間をかけて「より深く考える」勉強が求められています。

みなさんの努力次第で「深く考える力」が付き、大学卒業までの 4 年間で大きく視野が広がることと思います。そのことで、「いい就職ができる力」という次元だけでなく「この社会を生きていく力」をつけることができるはずです。大きな可能性がある未来に向かって頑張ってください。

経済学部で学び、経済学部で教える

小林 均

大学は経済学部で、大学院も経済学研究科でした。なぜ経済学部へ進学したか、と言えば、「経済がすべての基本という考え方」がおぼろげにあったと思います。それは、小学校の頃、高度成長が始まり、高校1年の年、東京でオリンピックが開催され、それ以前の生活との違いを体感していた、からだと思います。高校に進学し、「政経」「倫理社会」の授業で、「経済学」の言葉の意味を知ったことも、重要な要因と考えます。「経世済民」「経国済民」、すなわち、「世の中を治め、人民の苦しみ救う」、「国を経営し(治め)、人民の苦しみ救う」に魅力を感じたからです。皆さんは、経済学部に入學し、マクロ経済学、ミクロ経済学を学びますが、経済学の歴史や私の大学時代を振り返ると、いまでは一般的な「マクロ」「ミクロ」という表現も、経済学部の学生時代は、まだポピュラーではなかったです。マクロ経済は、所得分析とか、国民所得分析、巨視的経済学、ミクロ経済学は価格理論、価格分析、微視的経済学、と呼ばれ、2009年暮れ逝った、サミュエルソンの「経済学」が双方を扱う、入門的な必須な教科書とされていました。授業では、マクロ経済学の経済成長論が主流で、高度成長とその原因・帰結・代償(公害)を論じる日本経済論が盛んで、資源配分を論じるミクロ経済、厚生経済学、経済政策論はやや後ろに控え、その後の隆盛を待っている時代でした。3年からの専門ゼミは財政の先生で、ゼミではエドウィンキャナン版の「国富論」を読みました。卒論は「社会と個人」というテーマを先生に伝えたところ、結果的に「道徳情操論」を読んでいた。

改めて、経済学とは何か、と問われれば、「多くの人が幸せになること、そのための制度は何か、を考える学問」というふうに捉えています。経済全体の動きを理解することはもとより、「効率性」と「公平性」という判断基準、「費用」と「便益」との関係、といった基本的な視点から、物事を考察する常識的な学問で、この常識に基づいて判断すれば、それほど誤った結果にならないし、この常識で対応できない対象は、別の判断のための道具を準備すればよいと考えています。

新書をバッグに入れて

杉村 芳美

みなさんには読書の習慣がありますか。ある新聞社の読書世論調査によると、「1ヶ月に何冊本を読みますか」という問いに、「読まない」と答える人の割合が、50%を超えるようになっています。この割合をみなさんは高いと思いますか、それとも低いと感じますか。

私も、ゼミがスタートするときに、学生たちに同じ質問をしています。残念ながら、「読まない」という答えの割合は、うえの数字よりもかなり高くなっています。本を読む習慣がないと答えた学生に「いつごろから読まなくなった？」と尋ねると、「中学生くらいから」などの答えが返ってきます。なかには、「生まれつき」という人もいました（子どもの頃に、絵本を読んでもらったことを思い出そう！）。「なぜ読まなくなったのか」を尋ねると、「部活が忙しくなって」とか、「ほかにやることがあるから」などの理由があがります。

「大学生なんだから本を読むのは当然」といった野暮な言い方をするつもりはありません。「読書では時間と空間をこえてさまざまな英知と出会うことができる」とか、自ら考え想像し思いをめぐらす時間をもてる」といった効能を言うつもりもありません。

最も伝えたいのは、生活のなかで読書の楽しみをもたないのはもったいないということです。こう言うと、ほかに楽しいことはいくらでもありますという答えがすぐに返ってきそうです。しかし、とにかく読んでみてごらん面白いから、とだけ言っておきます。

読書を楽しいものにするコツは、ただ一つ。面白い本を読むことです。手始めに、本屋にならんでいる膨大な「新書」のなかから一冊を選んでみてください。きっと自分の関心や興味に引っかかってくる面白い本があるはず。将来の進路を考えるうえでヒントになる本もあると思います。

バッグにはいつも新書が入っている、そんな習慣をつくってください。

環境経済学への招待

柘植 隆宏

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ここでは、自己紹介を兼ねて、私の専門分野である環境経済学についてご紹介します。

環境経済学とは、その名の通り、環境問題を経済学の観点から考える分野です。これからみなさんが勉強される経済学の分析手法を使って、環境問題の原因を探ったり、有効な対策を考えたりします。

経済活動と環境問題は密接に関連しています。私たちは、モノを作るための原材料（例えば石油など）を環境からとってきます。そして、それを使ってモノを作り、消費します。しかし、生産の過程では工場から排煙や排水を出しますし、流通の過程では、運搬用の自動車から排気ガスを出します。消費した後には、廃棄物を環境に排出します。つまり、私たちが行っている経済活動が、資源の枯渇、環境汚染、廃棄物の発生といった環境問題の原因となっているのです。

これまでの経済学よりも分析対象を少し広げて、経済活動を行うために必要となる資源の利用や、経済活動に伴う汚染物質などの排出まで含めて考えるのが、環境経済学です。

経済活動と環境の関係を理解することで、どのようにすれば環境問題の発生を抑えることができるかについても考えることができます。例えば、汚染物質の排出に対して罰金を科したり、汚染物質の排出を減らすための対策に対して補助金を出したりすることなどが考えられます。汚染物質を排出している工場は、汚染物質を出すことでお金を払わなければならないったり、汚染物質を出さないようにすることでお金がもらえるようになったりしますので、なるべく汚染物質を出さない努力をしましょう。このように、経済学の発想を使うと有効な対策を提案できる場合があります。

残念なことに、環境問題はますます多様化し、深刻化しています。また、学問としての環境経済学はとても新しい分野です。環境経済学には、未解決の問題がたくさんあります。みなさん、ぜひ一緒に環境経済学を勉強しましょう。

大学の勉強は面白いよ！

筒井 義郎

みなさん、ご入学おめでとうございます。私にとっては、もうはるか昔の出来事になりましたが、今でも、長くつらかった高校3年生の受験勉強と、合格し入学した時の嬉しさは覚えています。私は、受験戦争では敗者で、200名に満たない学年で3年生の間に100番以上も順位を落としてしまいました。志望校もそれに合わせて変えざるを得ず、なんとか引っかけたというのが実情でした。だからと言うのではありませんが(?)、受験勉強には批判的です。あんな単調でつまらないことを一日の大半やっていたことが優れたことでもなんでもない、というのが持論です。

それに比べると、大学で学ぶことは格段に面白いこと、請け合いです。これまで数千年にわたって、人間が積み上げてきた科学・学問の体系ですから、いくら学んでも底に達しない奥行きをもっているのは当然でしょう。とくに、経済学は一大体系ができていて、しっかりとした基礎から、多方面の応用まで一貫した論理で理解することができます。ほかに比べると若い学問ではありますが、どんどん発展を遂げ、現在も華々しく発展している学び甲斐のある分野です。ここ数十年では、人々が合理的であるという前提で、満足度を最大にするように行動するという定式化を用いることによって、多くの事実や現象を説明できることを示しました。人々の行動だけでなく、社会全体の動きを分析するいわゆるマクロ経済学も、この定式化で記述するのが、最近では標準的になってきています。経済行動だけでなく、結婚や離婚や犯罪といったいろいろな行動まで、経済分析の枠組みで説明できるようになっています。さらに、最近では、「合理性の仮定」をゆるめて、人々がどのように非合理的であるかを究明し、それによって、経済理論をどのように修正しなければならないかを追究する「行動経済学」という分野も展開されつつあります。

経済学部に入学することは、皆さんにとって本当に幸運なことだと思います。この経済学を力いっぱい学んでみませんか。私たちが手助けします。

解脱／解説

寺尾 建

2015年4月。神戸市東灘区岡本で生まれ育ったXさんは、甲南大学経済学部に入りました。文字通り、地元の大学に通うことになったわけです。

入学してから少しの間は、その授業がどの建物のどの階のどの教室で行われるのかについて、「その時刻になれば、足が勝手にその教室に向かう」というわけにはいかないでしょうし、出口を間違えることも少なくないでしょうが、「慣れた」と思える頃には、そのようなこともなくなります。

ほどなく、Xさんのことを“Yちゃん”のようなニックネームで呼ぶ人も出てくるはずですが、いずれにせよ、Xさんは、教室にいるときには、ただのXさんです。

Xさんは、教室を出ると —— 「経済学部のXさん」になります。
Xさんは、大学を出ると —— 「甲南大学のXさん」になります。
Xさんは、東灘区を出ると —— 「東灘区のXさん」になります。
Xさんは、神戸市を出ると —— 「神戸市のXさん」になります。
Xさんは、兵庫県を出ると —— 「兵庫県のXさん」になります。
Xさんは、日本を出ると —— 「日本のXさん」になります。
Xさんは、アジアを出ると —— 「アジアのXさん」になります。

このように、“外”に出ていくたびに、「〇〇のXさん」の「〇〇」のところが変わっていきます。それは、“外”に出ると、そのたびに、Xさんがつながる人が変わるからです。仏教では、このことを、「六道輪廻」から離れるという意味で「解脱」といいます——という話を、4年前に、あるインド人から教えてもらいました。

いまから4年後の2019年3月。甲南が100周年を迎える直前に、Xさんは、甲南大学経済学部を卒業します。大学を出ることになるわけですが、そのとき以降ずっと、Xさんは、「甲南大学のXさん」となります。

甲南大学の創設者である平生鈞三郎先生は、「世界に通用する紳士・淑女たれ」とおっしゃっています。つまり、「世界のXさん」となるには、世界の“外”に出るほどの大きな「解脱」が必要になるということです。

何かに『なる=become』ということ

中島 清貴

本当に何かを実現したければ、
眼の前にある様々な『可能性』を徹底的に切り、
ひとつの『可能性』を突き詰めなさい。
人でありたければ、
切られてしまった可能性に『愛惜の念』をもっていなさい。

学生時代の恩師の言葉です。僕は経済学者としてメシを食べています。別の職業についていたらどうなっていたかなあ、と想うことは今でもよくありますが、とにかく今は経済学者として『生かされて』います。

経済学と言っても分野は広く、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、金融論、財政学、労働経済学、など数え上げればきりがありません。僕が経済学者として『生かされている』ということは、とりもなおさず僕には専門分野があるということです(ちなみに、僕の専門分野は金融論です)。

つまり、経済学者として『生かされている』ことと引き換えに、僕は自分の専門分野以外の分野を、『好むと好まざるとに関わらず』切ってしまうということになります。経済学者以外の職業の可能性を切り、専門分野に閉じこもりながらその可能性を徹底的に突き詰める努力をすることで、僕は経済学者として『生かされている』わけです。

一方、『経済学者としての可能性』を突き詰めるだけで、『他の可能性』に対する想いや配慮がなければ、僕には『人としての大事な何か』が根本的に欠けていると言わざるをえません。この世には、経済学や自分の専門分野以外にも想いを馳せるべき『様々な可能性』に満ち溢れているからです。

というわけで、甲南大学では、

授業の時間内は『頑固な経済学者』として、
授業の時間外は経済学以外の可能性に想いを馳せる
『気の多い人間』として、

皆さんにお会い出来ることを心から楽しみにしております。

新入生の皆さんへ

林 健太

このたびは、甲南大学経済学部へのご入学、誠におめでとうございます。

皆さんが生まれ育ったこの 18 年の間に、世の中のあり方は大きく変わりました。具体的には、インターネットが普及したことで、コンピュータとインターネットが生活の中心となる、いわゆる「情報社会」へと突入したのです。

情報社会においては、パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使いこなし、いかに早く必要な情報にたどり着けるかが勝敗を分けることになります。情報を持つ人と持たない人、あるいはデジタル機器を使いこなせる人とそうでない人との間の格差はますます広がり、特に3年後の就職活動の際には、顕著な差となって現れることでしょう。だからこそ大学生の間に、最低限のスキルとマナーは身につけていただきたいと思います。

また、大学時代というのは、将来どの国でどのように生きていくのかについて、じっくりと時間をかけて考えられる貴重な時期でもあります。様々な情報がインターネットを介して手に入れられるようになりましたが、それでも実体験に勝る情報収集はありません。日本は便利で清潔で快適な国です。しかしながら、その素晴らしさが、この国に住み続けていると、なかなか実感しづらいものです。ぜひ海外留学制度等を利用し、大学生活4年の間の半年だけでも外国の空気に触れ、海の向こうから日本を眺めてみてください。きっと新たな発見があることでしょう。もしかしたら、日本の外で暮らす方が自分には合っていると感じることもあるかもしれませんよ。

最後になりますが、人生は楽しんだもの勝ちです。先行きの見えない時代だからこそ、自分が本当に好きなことや得意なことは何かをよく見極め、一人でも多くの人が、その才能を生かせる仕事に就けることを願ってやみません。いち早く己を知ること、それこそが情報社会を生きていく上での重要なキーワードだと確信しています。

なぜ将来を決めようとするのですか？

平井 健介

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生というキャリアをどう過ごそうかと、胸を膨らませていれば幸いです。しかし、卒業後のキャリアについて、すでに悩み始めている人が多いのではないのでしょうか。私の専門は歴史なので、過去の人々がどのように自分のキャリアを決めていたかを題材に、ささやかなアドバイスを送ろうと思います。

現代社会の特徴の一つは「自由」ですから、皆さんは将来のキャリアを自分で決めることができます。しかし、過去の方は違いました。たとえば、「士農工商」という身分社会であった江戸時代では、自分の将来は生まれた時にほとんど決められていますし、ドラマや映画では「家のため」という理由で、見知らぬ相手と結婚する過去の人々が登場します。過去の社会では、自分のキャリアの多くは他人に決められていたのです。したがって、キャリアの歴史は「他人によって決められる」時代から、「自分で決められる」時代へと変化してきたと言えるでしょう。

しかし、「現代の方がいい」と思うのは早計です。過去の人々は、決められたキャリアが嫌であっても、逃げだしません。不思議なことではありません。なぜなら、キャリアは他人が決めるので、自分の人生を良いモノにするには、そのキャリアを一生懸命に生きる以外にないのです（強運であれば新たなキャリアを与えてもらえるかもしれませんが）。そういう意味では、現代の学生が抱える「なりたい自分探し」（将来をどうするかを考えること）という苦悩は、過去の人々にとっては無縁のものです。どうでしょうか。過去の社会で生きるのも、それほど悪くはないでしょう。

自由な社会を生きる私達は、将来のキャリアをどのようにも描くことができます。それは素晴らしいことです。しかし、その一方で、今のキャリアを一生懸命に生きるという、根本的な姿勢が失われてしまいました。今を生きることなく「なりたい自分探し」をするのは現実からの逃避に過ぎません。せっかく、大学生というキャリアに飛び込んだのですから、それを一生懸命に頑張ることがまず重要なのではないのでしょうか。そうすれば、誰かが次のキャリアを与えてくれるかもしれませんし、自分から次のキャリアに足を踏み入れているかもしれません。

経済学を学んで良かったこと

村澤 康友

「社会の利益を増進しようと思いついでいる場合よりも、自分自身の利益を追求するほうが、はるかに有効に社会の利益を増進することがしばしばある。社会のためにやるのだと称して商売をしている徒輩が、社会の福祉を真に増進したというような話は、いまだかつて聞いたことがない。」

—アダム・スミス「国富論」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

経済学の勉強に興味を持ってもらえるように、私自身が経済学を学んで良かったと思うことを書きます。

まず第1に、経済学の教員として食べていけるようになりました。

第2に、お金の使い方が上手くなりました。買い物・資産運用・保険や年金・住宅ローン・税金など、経済学の基本的な考え方を学んだおかげでずいぶん得をしていると思います。

そして第3に、経済学の考え方を深く理解することで、「自分の好きなように生きる」ことに自信を持てるようになりました。アダム・スミスの言う通り、社会に貢献するためには、自分を犠牲にするよりも、自分の得を追求したほうがよいのです。そう考えることで、他人の自由な生き方も尊重できるようになりました。

ただし自由は決して無制限に認められるわけではありません。

「自由は、責任ある個人だけが要求できるものである。」

—ミルトン・フリードマン「資本主義と自由」

皆さんが4年間の大学生活を通じて、より豊かな人間に成長されることを祈念します。

経済学部生へ

森 剛志

ハングリーであれ！バカであれ！

若い時代は、「人生まだまだ長い」と思います。大学生になったばかりには、「大学4年間はなんと長いのだろう」と思うでしょう。でも、振り返ると、毎日すぐ過ぎ去ることがわかります。1年生の時間が100とすると、2年生は70くらい、3年生は50くらいで、4年生は20くらいの長さを感じられるでしょう。

大学一年生のときには、できるだけ多くの人と友人になり、仲間作りをして、勉強しやすい環境をつくるといいと思います。

実は、人の幸せはいろいろなところに転がっているものです。学生時代には多くのお金はありませんが、実はそれが幸せだったりします。お金があつて、親から買ってもらった車をみせびらかせて乗りまわっている学生もいるかもしれませんが、決してこのタイプの人が幸福とは限りません。貧しさの中で、清貧を楽しむとき。しずかに読書して、知らない世界に思いをはせるとき。普通のなんでもない生活でも、幸せは数え切れなくあります。

人生では、うまくいかないことがあります。どうしようもないほどの屈辱をうけることもあります。でも、いつも心にバランスを持ってください。そして少しの勇気と情熱を持てれば、さらによいです。私が甲南大学に来ておどろいたことは、ほとんどの空き時間をバイトで埋めている学生が大半だったということです。（それと携帯とテレビ漬けということ。）

彼らは、自分の大切な青春を時給1000円で売っているのです。かわいそうでした。バイトもいいですが、のんびりとした何もない時間を十分つくって、読書と友人や先生との会話をして大学生活を満喫してください。何をしたらいいかわからないのですが、実はやれることはたくさんあります。これから2020年までは日本が絶好調の時代です。

みなさんはラッキーです。ですから、ハングリーであれ！バカであれ！

経済学部の先生方に質問

(50 音順)

青木 浩治先生	30	小林 均先生	54
足立 泰美先生	32	小山 直樹先生	56
石川 路子先生	34	杉村 芳美先生	58
石田 功先生	36	柘植 隆宏先生	60
市野 泰和先生	38	筒井 義郎先生	62
稲田 義久先生	40	寺尾 建先生	64
上島 康弘先生	42	中島 清貴先生	66
永廣 顕先生	44	林 健太先生	68
岡田 元浩先生	46	平井 健介先生	70
奥田 敬先生	48	村澤 康友先生	72
春日 教測先生	50	森 剛志先生	74
高 龍秀先生	52		

何でも聞いて
くれたまえ!





青木 浩治（あおき こうじ）

神戸大学経営学部卒

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

難しく表現すると現代の国際貿易と海外直接投資、および為替レートの理論・実証研究です。まっ、国際経済の何でも屋さんといったところでしょうか。過去 10 年間では躍進著しい中国に的を絞った地域研究も行ってきました。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

おもしろいと感じたからです。私の学生時代は現在と真逆で、経営学は全くの輸入学問。面白くとも何ともなく、経済学が光り輝いていた時代でした。ただ「あなたの会社は危ない」の先生は、有名なワリにとってもおしゃべり下手でしたが、面白い講義でしたね。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

老境の域に達したので、これ以上はあまり勉強したいとは思っていません。ただ、ここ数年サイドビジネスとして、「尖閣諸島の領有権を巡る史的研究」には少し関心を以て勉強してきました。漢文があまり読めないのですが、壁に突き当たっているのですが、しかし、結構新しい事実が分かり、その成果をぜひ一度皆さんの前で披瀝してみたい気持ちはあります。でも、誰も関心を持ってくれそうにないですね。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

だいたい昔の話で、老境の域に達したせいか、どうもあまり多くのことを覚えていませんが、1年生の1月の寒い雪の日に、六甲山をはだして山登りしたことでしょうか。足の裏がべろんべろんになってしまって、這って帰宅しました。わたし体育会系だったもので。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

そーですねー？直接的に役立つということはなかったのではないのでしょうか？

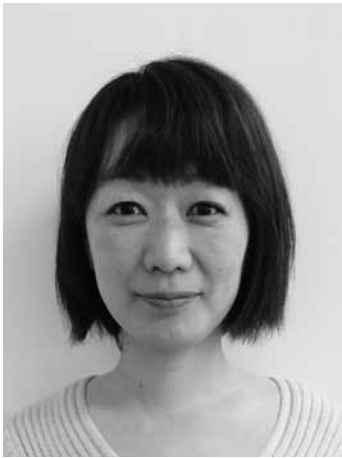
III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

さもない話ですが、わたしインドア派でして、読書か睡眠。それと晩酌を欠かさず。ちょっと老人趣味過ぎますよね。

7. 新入生に一言お願いします。

まずは仲間創り。これで大学生活のほとんどが決まります。



足立 泰美 (あだち よしみ)

大阪大学大学院国際公共政策研究科

修士課程修了

大阪大学大学院医学系研究科

博士課程修了

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

地方財政ならびに社会保障財政です。

学生時代は、保健・医療・介護の実証分析や税・社会保険料のシミュレーションをしていました。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

金銭がなくても一定のレベルの医療が受けられる日本。その国の医療の現場において、医療の通念と社会情勢との隔たりに直面し、経済的な考えが求められていると感じたのが、最初のきっかけです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

最近、女性の雇用と少子化対策を中心に研究をしています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

週末の隅田川のブルーテントでのヒアリング、
夏季、春季休暇に訪れていたフィリピンのミンドロ島での健康調査

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

人生の選択の仕方です。学生時代には楽しく好奇心が操られる機会が沢山あります。しかしながら、時間的にも金銭的にも制約があります。諸先生や友人の考え方や生き方を間近で見たり聞いたりするなかで、常に心掛けていたことは、多様な経験、それら機会を通して何を実現させたいのか、あるいは目標をたて、その目標を叶えるには今何を選択し身につけておいたほうがいいのか。そして決断した後はそれに向かって邁進する生き方を学びました。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

カプチーノの美味なカフェで
山積みの宿題をこなしています。。

7. 新入生に一言お願いします。

トコトン遊んで、思いっきり勉強してください。そこから失敗と成功を繰り返しながら、自分の限界を感じつつ、自身の得手と不得手を身をもって知ることができます。この「知る」ことの積み重ね、それが自分についての知識になります。将来への道が見えてくるきっかけになります。



石川 路子 (いしかわ のりこ)

神戸大学工学部 環境計画学科

神戸大学大学院 自然科学研究科

大阪大学大学院 国際公共政策研究科

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

私の専門分野は「都市経済学」です。都市や地域の抱える課題がすべて研究対象になるので非常に幅広い分野ですが、今の私のテーマは生活の質（Quality of Life）の地域間格差の分析です。生活の質が地域によってどのように異なるのか、さらにその差がどのような要因で生まれているのかを明らかにすることで、よりよい地域をつくるための方策を模索・提案しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

私は将来、何らかの形で住宅に関わる仕事に就きたいと思っていました。そのため、大学では工学部に所属して建築を学び、「理想の住宅とは何か」を考え続けてきました。しかし、素晴らしい住宅が建ったからといって、そこに住む人々の暮らしが良くなるとは限りません。人々の暮らしをより良くするためにはどうすればいいかをより広い視点から考えたいと、経済学を学び現在に至っています。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

障がい者の方々の「生活の質」について精緻に研究したいと考えています。障がい者の方々はこれまで社会の中でもマイノリティ（少数者）として扱われてきました。このため、彼らのウェルビーイング（幸せ）は、主に社会保障制度の充実度で測られてきました。しかしながら、彼らの「生活の質」は、

生活の自由度や職の安定性などその他の指標によっても評価される必要があります。何らかの障がいを抱えた人でも満ち足りた生活を送ることができるよう社会の形成に、少しでも役立つことができたかと考えています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

大学は建築系の学科に所属していたので、毎日設計の課題に追われていたことが一番の思い出です。本当に大変でしたが、友だちと一緒に夜遅くまで頑張ったことは今ではいい思い出です。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

私の大学時代のゼミには大学4年～大学院2年生まで15名程度が所属していました。毎日ゼミ室に通っていたこともあり、全員が兄弟のように仲良かったです。今でも会う機会がありますが、会うといつも初心に戻ることができます。ゼミでのメンバーは、いつでも私を奮起させてくれる本当に貴重な存在です。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

基本的に休日は家でんびり過ごすことが多いですが、スキューバダイビングが趣味なので時間があれば海に出かけています。

7. 新入生に一言お願いします。

新入生の皆さんの中には、学生生活に不安を抱えている人もいるかもしれませんが、ただ、大学時代に経験することは本当に貴重ですし、それが社会人になった時に大きく活かされます。これから皆さんが楽しくそして有意義な時間を過ごすことができますように！！



石田 功 (いしだ いさお)

Ph.D., Economics,
University of California, San Diego

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

金融市場データの統計分析です。例えば、株価が明日上昇するのか下落するのかを予測することは極めて難しいですが、そのアップ・ダウンの変動の激しさを度合い（これをボラティリティと呼びます）は過去データ分析からかなりの精度で予測できます。金融リスク管理においても重要なこのボラティリティ予測の精度向上方法の開発が主な研究テーマです。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

90年代前半に証券会社に入社し、研究開発部門でデータ分析に基づく投資技術やリスク管理システムの開発の仕事（クウォンツ）に就きました。日本の証券会社が金融技術ではるか先を走る欧米金融機関へのキャッチアップに邁進していた時代で、同僚とともに私も「世界水準の一流クウォンツを目指そう！」と夢中になり打ち込んでいましたが、研究者としての基礎的訓練が不足している自分の限界も感じていました。それで、90年代後半に会社が金融危機に呑み込まれそうになったとき（日本の多数の大手金融機関が破綻）、思い切って大学院に入学し直し金融データ分析研究者の指導を受けました。学位取得後も金融業界には戻りませんでした。それ以来、この研究を継続しています。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

金融市場データ分析の分野は日進月歩なので、既に着手した研究の区切りを早くつけて論文として発表したいとだけ考えています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

一番の思い出は自分には特別でも、ありきたりのことで、ここでご紹介するほどのことではないです。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

人生の財産になっています。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

余暇の時間はあまりないですが、よく、映画を見えています。

7. 新入生に一言お願いします。

大学4年間は「勉強＝将来の自分への投資」として、勉強（経済学部生ですから当然、経済学の勉強も含めて）のウェイトを出来るだけ高めにしてほしいと願います。先の人生長いですし、吸収力の高い若いときの勉強＝投資の生涯リターンは高いはずです。「遊び」「労働体験（バイト）」「友達づくり」も大切で、人によって最適な時間配分は異なるでしょうが、それにしても日本の平均的な大学生の勉強時間のウェイトは低すぎるように思えます。



市野 泰和 (いちの やすかず)

Ph.D. (Economics),
Department of Economics,
University of Washington

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

私の研究分野は、国際経済学とミクロ経済学です。今は、国際貿易からの利益、より一般的には、交換からの利益について研究しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

「自由貿易はすべての人々にとって好ましい」という命題をより説得的に一般の人に伝えるには、現状の理論では不十分ではないかと思ったのがきっかけでした。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

あります。どのように売買が行われているのかを考慮した市場取引の理論をつくることに興味があります。それから、売買と道德との関係についても研究したいと思っています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

演劇サークルで、朝から晩まで稽古をしていたこと。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

私の妻は大学時代の同級生です。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

本を読んだり、演劇を見たり、美術館に行ったり、お買い物をしたりします。

7. 新入生に一言お願いします。

みなさんはきっと、大学時代の4年間で、成長したい、大人になりたい、いろんな能力やさまざまな考え方を身につけたい、と思っているでしょう。そのためには、どうぞ勉強をしてください。たくさんの本を読んでください。あなたの知っている大人のなかには、「大学時代の勉強なんて何の役にも立たなかった」という人がいるかもしれませんが、気をつけてください、その人はもしかしたら、大学時代に何の勉強もしなかった人かもしれないですよ。あなたは、自分の成長のために、机に向かって勉強するんじゃなくて、いろんなことを経験したいと思っているかもしれません。でも、自分の持っている時間は限られていますから、そんなに多くのことを経験することはできません。いっぽう、学問には、これまで生きていた人間たちの経験と、それらの経験から彼らが考えたことが整理され分類されてコンパクトにまとめられています。つまり、学問を勉強することは、他の人の経験や考えを自分のものとして取り込むことなのです。勉強は、あなたを成長させる、確実にムダのない、効果的な方法です。あなたの人生を豊かにするために、あなたは、勉強をしてください。本を読んでください。

勉強や読書が今後ずっとあなたの役に立つものとなるよう、私たち教員は、大学1年生のみなさんに、他人の経験や考えの中から自分に有益なものを見つけることのできる注意深さと、他人の経験や考えを自分のものと感じることのできる想像力と、他人の経験や考えを自分に取り込むことのできる技術とを与えるような授業をするつもりです。



稲田 義久 (い나다 よしひさ)

昭和 51 年 3 月 神戸大学経済学部卒業

昭和 56 年 3 月 神戸大学大学院

経済学研究科博士後期課程単位取得

平成 4 年 12 月 博士 (経済学) (神戸大学)

神戸学院大学、立命館大学を経て現在に至る

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済予測や環境問題の分析です。最近は関西の成長戦略に興味があります。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

経済予測については、経済の先行きについて正確な見通しがないと経済を論じることは困難だと思ったからです。環境問題はやはり地球温暖化の問題がきっかけで研究しようと思うようになりました。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

地元が斑鳩ですので聖徳太子研究と斑鳩地域活性化をテーマにしようと考えています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

中・高一貫の楽しく、精神的に充実した学生生活を送りましたので、大学時代の前半は社会に出た場合どのようなキャリアを選ぶかに頭がいっぱいでした。後半はそのための準備に時間を費やしていました。

ですから大学在学中での一番の思い出といえば、就職が決まった友人をよそ目にひたすら図書館で勉強したことです。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

新聞に論文を寄稿すると、長くあってもなくとも、大学時代の友人がそれを見つけていろいろコメントしてくれることです。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

研究とはまったく異なることに時間を費やしています。

7. 新入生に一言お願いします。

1 回生の時は大学が日々の中心となるように心掛けてください。まず講義に出て食堂でランチをとりまた講義に出る生活です。これを繰り返すうちに、多くの友達ができます。様々なタイプの友人作りに心がけてください。例えば、能力ではとてもかなわないが、自己向上には良い友達。発想がよく似ていていろいろなことを議論できるタイプ。卒業を確実にするために必要なタイプ等々。数は少なくてもバラエティーに富んだ友人を作ってください。



上島 康弘（うえしま やすひろ）

一橋大学経済学部卒業，大阪大学経済学研究科修了．

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

労働経済学．経済のしくみのなかで労働条件（給料や労働時間など）がどのように決まるのかを考える分野です．

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

労働条件の決まり方は身近で重要な問題だから．これに対する考え方によって，さまざまな学派が生まれます．

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

なぜ日本の会社は職業能力のない新卒学卒者を雇って育ててくれるのかを知りたいと思います．乱暴なたとえですが，外国のサッカーチームはフォワードの選手が辞めたら他のチームで活躍するフォワード選手を引き抜くのに，日本のチームはなぜ二軍の選手を昇格させて，再度ユースを雇って教えるのでしょうか．

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

感じるままに好きなことを実行しました。入学した日に少林寺拳法部に入って四国の本山や信州で合宿したり、数学と統計学が面白くなって休学して勉強しました。大学対抗のゼミ発表大会では、幼稚だけれど自作の経済モデルを発表しました。やはり、思い出は一人で勉強したことではなく、先生や友人といっしょにすごした時間です。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

大学時代の最大の財産は、立派な先生と尊敬できる友人に出会ったことです。不遜な言い方ですが、1級の人たちがどう考え、どう行動するかを間近に見ることで、その後の人生において1級品と2級品の区別ができるようになりました。私には、お手本が必要でした。人間の1級品たちに出会えたこと、それだけで大学に進んでよかったと思います。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

家でだらだら、ごろごろ、うとうと。結局、これがしあわせ。

7. 新入生に一言お願いします。

たくさん本を読んで、たくさん旅をしてください。自分の世界を広げることで、人間や社会のおかしなところをよく感じて、自分らしく生きる道を見つけてください。



永廣 顕 (えひろ あきら)

東京大学大学院経済学研究科博士課程

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

現代日本の財政・金融政策の政策形成過程を解明することを研究テーマにしています。現代日本の財政・金融政策の特質は1920年代から戦時期にかけて形成されたのではないかという問題関心があり、大学院時代から研究を続けています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

大学院時代、当初は財政・金融政策の現状分析に取り組んでいたのですが、行き詰まってしまいました。その際、指導教員の先生から歴史分析を勧められ、意外と解明されていない歴史的事実が多いことに気づいたのがきっかけです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

目の前の仕事をこなすだけで精一杯ですので、そんな余裕はとてありませんが、交通に関わる政策や産業について調べてみたいです。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

一番をあげるのは難しいですが、大学在学中はオリエンテーリングクラブの活動が生活の中心で、週末になると各地の野山を駆け巡っていました。クラブで大会を開催したり、有志でチームを組んで駅伝大会に出場したりもしました。学園祭でクラブの仲間と3日間大学に泊まり込んで準備・運営したこともよい思い出です。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

ものの見方・考え方を広げることができたと思います。この歳になっても、サークルの仲間とは毎年、ゼミのメンバーとは数年に一度は必ず集まっています。大学時代の昔話に花を咲かせつつ、みなさんさまざまな業界・世界で活躍されているので、おしゃべりしながらたくさんの刺激を受けています。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

いわゆる「家族サービス」が中心で、買い物をしたり、ドライブをしたり、掃除をしたり、読書をしたり（マンガを含む）、音楽を聴いたり、スポーツ観戦をしたり、ネットサーフィンをしたり・・・といったところでしょうか。

7. 新入生に一言お願いします。

勉強やクラブ・サークル活動など、「甲南大学」の中で自分の興味、関心を見つけて、4年間それに精一杯打ち込みましょう！大学の授業は難しいと思いますが、前向きに取り組むことでものの見方が広がり、必ず自身の成長につながると思います！



岡田 元浩（おかだ もとひろ）

同志社大学院経済学研究科博士後期課程中退

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済学の歴史。現在は労働理論・思想の史的展開についての批判的研究に取り組んでいます。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

当初は文学の道を目指して文学部に進んだのですが、挫折しました。その後の紆余曲折（うよきよくせつ）の中で、何となく経済学史研究の道にたどり着いたわけで、この世界に入る強い動機やきっかけがあったわけではありません。ただ、今では、結果的に自分に合った道に出会えたと、幸運に感謝しています。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

いろいろとありますが、自分の力量や年齢を考えると、現在取り組んでいる研究を自分なりにまとめ上げるだけで精一杯です。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

大学時代のわたしは心の動揺がはげしく、いつも何かに焦り続けながらも、十分な行動を伴わず、結果的にこの場でみなさんに語れるような思い出（良くも悪くも）を創り出すことができませんでした。恋愛、旅行、冒険的体験 etc.... もっと経験しておくべきでした。大学での日々はかけがえのないものです。みなさんもわたしのように後悔せぬよう、今を精一杯生きてください。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

人生の甘さと苦さ、勉強と研究の違い、などです。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

以前は山登りや自然風景写真撮影によく出かけていましたが、現在は、年齢を重ねて出不精になったのと、十分な余暇時間がないため、せいぜい家で音楽を聴いたり、買い物に出かける程度です。

7. 新入生に一言お願いします。

「明日死ぬがごとく生き、永遠に生きるがごとく学べ (Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.)」

(Mohandās Karamchand Gāndhī)



奥田 敬 (おくだ たかし)

1958 年生。

慶應義塾大学大学院経済学部研究科博士課程単位
取得退学

一橋大学社会科学古典資料センター助手

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

「18 世紀ナポリ啓蒙」

もう少し具体的かつ現代的に言えば、アダム・スミスから始まる（とされている）のとは違う〈経済学〉の可能性（初心）の探求。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

《一八世紀の最後の四半世紀にいたるまでは、経済学はイタリア人の科学であった。》というシュンペーター『経済分析の歴史』の一節がずっと気に懸かっていたのですが、卒論の対象を絞り込もうとしていた大学 3 年（1980 年）の 7 月に偶然、洋書店の書棚で Venturi, Franco, *Italy and the Enlightenment. Studies in a Cosmopolitan Century*, New York U.P., 1972 に出会いました。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

ナポリに関するあらゆる事柄についても資料はできるだけ集めたつもりなのですが、まだ上のテーマだけで手一杯です。

イタリアについても、ヨーロッパについても、世界や宇宙についても、分からないことだらけなのですが……。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

入学早々は、図書館の書庫の隅々まで探索しまくったこと。

そして（修士に進んでからですが）ナポリへの留学の機会に恵まれたこと。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

何年おきかでも、学生時代のように、人生や学問について語り合える友人がいるのは、とても素晴らしいことだと思います。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

好きな本に読み耽っています。

（平日は「読まねば」なりませんので……。）

7. 新入生に一言お願いします。

Segui il tuo corso, e lascia dir le genti!

おまえの道をいけ。人々には言わせておけ。

（マルクス『資本論』序文の結句、cf.ダンテ『神曲』煉獄篇 5:13）



春日 教測（かすが のりひろ）

横浜国立大学 大学院国際社会科学研究所
博士課程（産業組織論、経済政策）

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

産業の競争状況や企業の戦略を、データに基づき実証的に検証することです。テレビや新聞で日常接するニュースで知る内容には、どのような経済合理性があるのか等を考えることは、良い頭のトレーニングになっていると思います。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

もともと企業小説が好きだったこともあります、「必要性に迫られたから」というのが素直な答えです。仕事で金融業や物流業、通信・放送業に関する調査・分析に携わったことがきっかけでした。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

最近いろいろな産業で合併・買収が盛んに行われていますが、その効果について、産業ごとの相違を踏まえた分析をしてみたいと考えています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

一年次秋の学園祭で出店し、期間中の三夜、寒空のもと交代で屋台番をしながらサークルの友人ととりとめもない話をしたことです(今よりは規則も緩やかでした)。内容は忘れてしまいましたが、自由を満喫している充実感があつたと記憶しています。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

全国から種々の背景を持つ学生が集まっていたから、いろいろな考え方に触れることができました。進路も金融機関や外資系企業、公務員、政治家など多様で、外部の会議などで思がけず同席する機会も何度かありました。皆、頑張っているようで、刺激になります。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

最近ではラジオをよく聞いています。インターネットを利用した radiko で電波状況の良くない都市部でもクリアに聞けるようになりまし、少額の料金を支払えばエリア外の放送も楽しめるようになりました。テレビよりもややディープなエピソードを聞けるところが魅力だと思います。

7. 新入生に一言お願いします。

大学は一方的に教わる場ではなく、講義に対する質問や意見、ゼミでの議論等を通じて共に学ぶ場でもあります。これから4年間、一緒に経済学を勉強していきましょう。



高 龍秀 (こう よんす)

1984年に大阪府立大学を卒業し、
1991年大阪市立大学大学院を修了。

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

広くみるとアジア経済。その中でもサムスンなど韓国の企業を研究しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

大学3年の時に読んだ本がショックを受けるくらい感動しました。その先生に学びたくて、大学院を受験しました。その指導教授がとても魅力的な先生で、アジア経済を真剣に学びたいと思いました。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

エレクトロニクス産業では、近年、中国企業の台頭が目覚ましいので、この点を研究したいと思います。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

学生時代は、韓国関連のサークルで毎日のように友達と社会のことを議論し、よく勉強しよく飲みました。一生付き合える仲間と出会ったと思っています。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

大学時代の先輩でとても研究熱心で、さきに大学教員になった先輩がいて、ある意味での自分の理想像にもなりました。

大学時代の同級生は、今でも、立場や肩書などに関係なく何でも言い合える、いい関係が続いています。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

映画を見るかスポーツ観戦でのんびりしています。

7. 新入生に一言お願いします。

大学時代に大切な友達を作りましょう。授業にちゃんと出て先生の話をよく聞きましょう。大学時代に打ち込める何かを見つけましょう。



小林 均 (こばやし ひとし)

1972 年一橋大学経済学部卒業

1978 年同大学経済学研究科博士課程満期退学

1998 年甲南大学経済学部教授

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

持続可能な社会保障制度と税制

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

小学校時代、野球好きな教師が「後樂園」の「後楽」の真の意味を教えてくれ、(住まいが近く、母親から聞いた「貧乏人は麦を食え」と言った) 内閣総理大臣池田勇人が高度成長の所得倍増計画をぶち上げ、高校時代の「政経」の授業で「経済学」の意味を知り、軍人上がりの英語の教師に、公立高校であったためか、「君たちは国民の血税で教育を受けているのであるからして、将来国民に還元すべき」と言われ、そして「経済の状態がよいことが人々の幸せにつながる」とおぼろげながら考えるようになりました。経済学部さらに大学院に進み、資源配分の議論が盛んな時期で、アトキンソン（「21世紀の資本」のトマ・ピケティの指導教授）の不平等尺度の解説を行った現在「内閣官房参与」浜田宏一教授の本に、「次のテーマは所得分配」という言葉に触れ、所得再分配に以前から興味を持っていたこともあり、研究の根底には所得再分配（公平性）、そして資源配分(効率性)をいかにバランスさせるかがいつもあります。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

所得税と労働意欲を論じた最適累進度の最近の研究成果、消費税の非課税対象の是非およびその国際課税における課題について。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

大学3年生（吹田で「万博」が開催）の時、1年間新聞配達をし、ヨーロッパに2週間旅行したこと。雪の降った冬朝早く「新宿通り」で新聞を山積みした自転車ごとこけたこと、現在の「防衛省」での三島由紀夫割腹事件報道のため最終版が遅れ、夕刊の配達が大幅に遅れたこと。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

2年次の3月から3年次の2月までの、朝と夕方の新聞配達、集金の仕事、3年次末自分以外すべてのゼミの学生（全員男性）は「青田刈り」で、進路は決定、ひとり、4年次秋の「大学院の試験」の準備、そして、ゼミの先生の退官に関する行事の仕事等、まっすぐ歩んできた人生です。とりたてて、交友関係、と言えるほどのものはありません。ちょっと大げさですが、一生懸命、やや「クール」すぎますが、「一期一会」ですかね。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

書斎の整理、自己の趣味のオーディオのチェック（PCオーディオ、ハイレゾ・DSD音源に関心を持っています）、ショッピングと散歩。

私以外誰もいない9号館（実際どの階にも、どなたかがいるみたいですが？）研究室で、講義の準備、研究、掃除です。

7. 新入生に一言お願いします。

遊ぶ金のためだけのバイトはしないこと。経済的な特別な理由を除いて、講義期間中アルバイトは週3日まで。一生その時々を与えられた条件の下で文章を書く必要性に迫られるものです。そのためにも本を読むこと、次第に文章は書けるようになるものです。大学生活は短いです。将来の目標を早めに設定し、それに向けて、計画を立て、我慢強く努力すること。人生その繰り返しです。



小山 直樹（こやま なおき）

名古屋市立大学大学院経済学研究科博士課程後期
課程修了

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

日本の国際環境協力の実際について調べています。また、授業改善アンケートデータの分析を行っています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

甲南大学では、授業改善アンケートをもう何年も実施していますが、アンケートデータをアカデミックに研究して有効に活用したという話を聞いたことがありません。こんな勿体ないことはないと思ったことがきっかけです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

授業改善アンケートデータの分析の延長上で、カテゴリカルデータの分析について、考察してみたい課題があります。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

ゼミの卒業旅行で、冬の温泉に行きました。雪見酒は飲みませんでしたが、雪見しながら温泉を堪能したのは良い思い出です。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

大学関係者になった学部の友人がいないので、あまり交流はありません。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

本屋さんを巡って、おもしろそうな新刊本をさがします。

7. 新入生に一言お願いします。

マイペースで行こう！



杉村 芳美 (すぎむら よしみ)

東京大学経済学部卒業
東京大学大学院経済学研究科
理論経済学専攻博士課程
単位取得満期退学

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済体制を、社会の中にある経済という視点から研究しています。
なかでも、歴史や文化の中での労働・仕事についての意識や制度の在り方に
関心があります。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

大学院時代に読んだ書物、接した先生方、友人たちの影響を受けて、経済を
広く社会・文化・歴史の中で考えるということに大きな魅力を感じました。
関心の対象が広がり、経済の世界の見え方もより深くなったと思います。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

数年前にアメリカに滞在したとき、働くアメリカ人の姿が印象的でした。彼
らの働き方を支えているものは何か、日本人のそれとの比較で考えたいと思
っています。アメリカ人だけでなく、あらゆる文化の人々について同様に思
います。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

1年次から2年次にかけての寮生活です。キャンパスの中にある学生寮で5人の共同部屋、上級生をふくめていろいろな地方から東京へ出て来た学生たちと、いっしょに生活しました。毎日の生活そのものが、サークル活動のようなもので、聞くこと、することがすべて新鮮で、得難い経験になりました。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

大学で過ごした時間の長さから言っても、学部時代の友人よりも大学院時代の友人との交友関係が、これまでの人生で強い影響を与えてくれています。研究上のことだけでなく、生き方を含めて大いに刺激を受けてきました。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

家や外で仕事があるとき以外は、家族と過ごす時間が長いですね。家の中の雑用をしたり、どこかに出かけたりです。買い物にもつきあいます。

7. 新入生に一言お願いします。

自己を成長させる貴重な4年間になります。いろいろな考えに触れ、いろいろな世代と交流をもち、自分の世界を広げてください。できたら、留学にもチャレンジしてほしい。ぜひ将来のために時間を費やしてください。



柘植 隆宏 (つげ たかひろ)

1976 年生まれ

神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程修了

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

環境経済学です。環境にはお金で測るといくらかの価値があるのか、といったことを研究しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

自然豊かな田舎で生まれ育ちましたし、大学でもアウトドアサークルで日常的に自然と触れ合っていましたので、環境問題には関心がありました。大学3年生のときに、経済学でも環境問題を扱える分野があると知り、環境経済学を勉強し始めました。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

いつかフィールド実験をやってみたいと思っています。『その問題、経済学で解決できます。』（ウリ・ニーズィー、ジョン・A・リスト著、望月衛訳、東洋経済新報社、2014年）の著者のジョン・A・リストのようなエキサイティングな研究がしてみたいです。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

アウトドアサークルの副会長をしていましたので、サークル中心の学生生活を送っていました。週末ごとに、仲間とキャンプ、川下り、洞窟探検などをしたことが一番の思い出です。夏休みや春休みに、バックパックを背負って外国を一人旅したこともいい思い出です。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

大学時代に生涯付き合える友人ができました。大学時代の友人とは、損得なくいつまでも付き合えます。いまでも年に何度かは当時の友人と遊びますが、大学時代と変わらず、とても楽しいです。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

仕事の都合で平日は別々に住んでいる奥さんと一緒に過ごします。2人で買い物に行ったり、ごはんを作ったりします。

7. 新入生に一言お願いします。

いま、みなさんが思っている「自分の適性」や「自分の限界」は、意外とあてになりません。自分自身を正しく理解するためにも、学生時代にいろいろな経験をしてください。



筒井 義郎 (つつい よしろう)

1950 年生まれ。東京教育大学（理学部物理学科）、大阪市立大学（経済学部夜間）卒。経済学博士。理科の高校教員を経て名古屋市立大学、大阪大学で金融と行動経済学を教えていました。

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

行動経済学、幸福の経済学、地域金融、株価が主たる研究領域です。最近は、幸福の経済学の研究を多くやっていました。なかでも、結婚や出産をする人に対するアンケート調査はここ 3 年続けてやっていて、もうすぐ結果の分析に入るところです。それから、今、妬みが経済行動にどのように影響するかについて、経済実験を計画しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

だいたい、思いつきで、始めることが多いです。ちょっと誰かから聞いたリ、論文や本に載っていることからヒントを得ることが多いです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

もう、あまり案が浮かんでこないのですが、エコダス（EcoDAAS）というのができたら良いな、と思っています。アメダスの経済版で、景気の良さの変化が地図上の動画で表示されるようなものです。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

沢山あります。第1は、試験ができなくて苦しんでいた思い出ですね。つらいです。それから、友人の会員制の結婚式。公民館のようなところでお菓子を並べてやりました。新婦が友人（新郎は先輩）でした。彼女は、その後、高校の先生になり、妊娠しましたが、癌に侵され、出産まで重体で生き続けたという話を旦那さんから聞きました。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

入学した東京教育大学は、激しい学生運動があり、半年間の学生のストライキ、その後の1年間のロックアウト（学生は誰も入校できない）で、卒業が2年遅れとなりました。2年下の学生とも同級生ということになって、物理学科・応用物理学科の級友は合計で120名です。卒業後は皆バラバラで、同窓会もほとんどなく、交友関係も保っていません。しかし、大学時代に一緒に議論したり、行動したりした経験は、現在の自分を作るのにしっかり役立っています。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

ジムの会員なので、なるべく、土日のどちらかには行くようにしています。健康のため。また、月に一回演奏会。月に一回研究会。そして、ときどき映画や散歩に行きます。そのほか、時間があれば、DVDでドラマやオペラを見ています。

7. 新入生に一言お願いします。

若いっていいですね。うらやましいです。



寺尾 建（てらお たける）

1991年 京都大学経済学部 卒業

1996年 京都大学大学院経済学研究科 修了

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

——「日本経済」や「アメリカ経済」, 「中国経済」など“経済の全体”についての問題を考えるために必要となる道具立てを揃えることです. 専門用語を使えば, 「マクロ経済学の理論的な基礎づけ」という言い方になります. 経済成長や景気循環などの仕組みを明らかにすることにつながる基礎的な問題を理論的に考えることが専門です.

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

——高校2年生のとき, 「もしかして, 自分は経済学から呼ばれているのでは?」と思うことがありました. 「経済」は(人の行動の結果であるので)人工的なところもある一方で, (人の意思ですぐに変えられるわけではない)自然のようなところもあり, そのような複数の側面をもつ問題を考えるのは, 自分に向いていると思いました.

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

——「どのようにして価格が決まるのか」という問題や「なぜ景気が良くなったり悪くなったりするのか」という問題は, 経済に関する最も基礎的な問題ですが, これらの問題については, 実は, いまだによくわかっていないところが少なくありません. これらの問題を明らかにすることにつながるような仕事をしたいと思っています.

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

——振り返れば、勉強ばかりしていたなあ、という感じです。ほんとうに読みたい本は図書館で借りるのではなく、自分で買うことにしていました。「次は、どの本を買えるか」ということをいつも考えていて、本屋の棚の前で数時間迷うようなことが何度もありました。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

——「頭の良さ」は一種類ではないこと、そして、人生においては、「頭の良さ」以上に「頭の使い方」の良し悪しが重要になってくるということ、交友関係を通じて、身をもって知ることとなりました。「頭の良さ」のタイプが異なる、だからこそ、互いにそのことを尊敬しあえる友人は、人生における大きな財産だと思います。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

——iTunes で、単純な作業をするときに聴いたり、移動中に聴いたりするためのプレイリストをつくっています。長いものになると、15 時間を超えるプレイリストになりますが、選曲と曲順を考えるのが、ほんとうに楽しいです。聴くのは、ぼくだけなんですけどね (笑)。

7. 新入生に一言お願いします。

——「希望が叶う」ということと「幸せになる」ということとは、実は、まったく関係ありません。「選んだ時点でその後のことがすべて決まる」というようなことはない、ということです。どんなことであれ、自分が選んだことが最も望ましいことになるように、選んだ後に創意工夫を重ねることが、とても大切だと思います。

あと、実践的なアドバイスをすると、卒業するまでの4年間で、500冊の本を読んでください。人生が変わります。



中島 清貴 (なかしま きよたか)

大阪大学経済学研究科博士後期課程修了

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

最近では、銀行と借入企業のマッチングデータ（どの銀行がどの企業にどれだけの貸出を行っているかに関するデータ）を利用して、銀行と借入企業の相互依存関係の観点から金融システムの安定化と銀行貸出の問題を研究しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

これまでは、銀行側や企業側だけの情報を利用して金融システムの実証分析をすることが一般的でした。しかし、銀行側や企業側だけの情報を利用した分析では、供給要因（銀行側の要因）と需要要因（借入企業側の要因）を同時にコントロールできないので、銀行貸出や企業投資の増減がどちら側の要因によってもたらされたのかについて見極めるのが簡単ではありません。

「公的資金注入政策を含む金融システムへの政策効果をちゃんと見極めるためには、両方の要因を同時にコントロールできるマッチングデータを利用しないと何も見えてこないなあ」と考えたことが今やっている研究に至ったきっかけです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

来年度中にマッチングデータを利用した一連のプロジェクトに目途を立て、そのあとは、経済学だけでなく社会学や法学の研究者と一緒に家族に関する経済分析（特に、家族法の経済分析）をやる予定です。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

いろいろとあるのですが、今の僕が懐かしく思い出せることとしては、月2万円のおんぼろアパートで一人暮らしをしていた日々です。友人を家に呼んでお酒を飲んだり、夜中にゴキブリと格闘しながら、いろいろな意味で自分を成長させる良いきっかけになったと思います。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

『飲み友達＝ソウルメイト』です。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

研究をしているか、プールに行っているか、サウナに行っているか、お酒を飲んでいるかのどれかだと思います。

7. 新入生に一言お願いします。

「たかが大学、されど大学」です。大学に過度な期待をすることなく、かといって何の価値も無いと斜に構えるのでもなく、皆さん1人1人にとっての使い勝手なり価値を見出してください。



林 健太 (はやし けんた)

本山第三小 → 本山中 → 報徳学園高 →
神戸商科大学 商経学部 管理科学科 →
大阪大学 大学院 国際公共政策研究科

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

これまでインターネット関連産業の現状や課題について、主にハードウェアやインフラの普及という側面から研究をしてきました。現在は、どちらかといえばソフトウェア（コンテンツ）の方に関心があります。とりわけ、観光というものを幅広い意味でのコンテンツの一つと捉えて、日本へのカジノ導入のあり方や、情報通信技術をどう観光と結びつけるのが望ましいか等について調査・研究しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

2009年秋から1年間、アメリカ西海岸の UC Berkeley に留学したことが転機となりました。それまで、日本は技術は持っているので、うまくやれば IT で経済を盛り上げられるはずだと考えていましたが、Google や Apple といった企業の勢いを現地で体感して、これは難しいかもと悟り、今までやってきたこととは違う何かを研究してみようと、ラスベガスに逃避をしたのが、現在の研究を始めたきっかけです。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

スポーツビジネス、音楽関連ビジネス、ゲーム業界など、コラボして研究してみたい分野はたくさんあります。それぞれ 5～10 年ずつくらいかけて研究できれば、退職する頃に達成感はあるかなと思っています。その導入として今年からヴィッセル神戸とのコラボレーション授業が経済学部において

開講されることになりましたので、個人的にとっても楽しみにしています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

阪神・淡路大震災の印象が強すぎて、他のことがあまり思い出せません。部活動に、授業のレポート、アルバイト、徹夜カラオケ、パチンコ、失恋等、皆さんとあまり変わらない青春時代を送っていたと思います。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

ある友人との出会いが、私の進路を大きく変えました。彼と出会っていなかったら、私は大学教員になっていなかったかもしれません。詳しくは基礎ゼミ I でお会いしたときにお話ししますが、「自分の好きなことと得意なことは違うかもしれない」ことに大学生の早い段階で気づかされたことは、大変ラッキーだったと思います。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

10年以上ずっと、ヴィッセル神戸の試合の年間パスを購入しているので、試合のある週末は可能な限りスタジアムに足を運びたい・・・のですが、子供が生まれてからはそれもなかなか難しく、TV観戦が多くなっています。空き時間は、サッカー観戦、ゲーム、子供と遊ぶ、海外旅行のいずれかをしていることが多いです。

7. 新入生に一言お願いします。

インターネットで何でも情報が取れる時代に、あえて大学に通う意味をよく考えて4年間を過ごしていただきたいと思います。皆さんの大学生活が少しでも豊かになるお手伝いが出来れば幸いです。



平井 健介（ひらい けんすけ）

慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程修了（博士（経済学））

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

アジア経済史。日本植民地（台湾や朝鮮）における経済の展開について研究しています。これらの地域は、日本の政策によって「発展」したと言われていますが、私は、日本の政策に現地の人々がどのように対応することで「発展」が可能となっていたのか、他のアジア地域の経済は「発展」にどのように関係したのかを分析しています。

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

台湾や韓国の経済成長は日本による支配のおかげだという議論をしばしば耳にします。私は、大学のゼミでアジア経済史を勉強していましたが、その議論の正否についてうまく説明できませんでした。それがくやしかったので、自分で勉強することにしました。

「説明することができない」は、研究する動機として充分です。みなさんも、説明できないことをたくさん見つけて研究してください。それが大学生の勉強であり、存在意義です。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

コピー品の研究。新しい商品が発明されると、すぐにコピー品・下級品が出回ります。これらはマイナスのイメージで捉えられがちですが、歴史を振り返ると、コピー品や下級品への欲望こそが、工業化などの経済成長を生み出してきたということもあるのです。

コピー品を欲する動機は何なのかについて、日本植民地の人々による石鹼消費を事例に研究しています。その過程で、今は植民地で銭湯がいつ頃登場したのかを調べています。研究とは地味な作業です。地味なことを愛せる学生が一人でも増えることを祈っています。

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

- ・1年生の春学期の履修登録。「自己責任」の意味を知った。
- ・入ゼミ面接。いわゆる圧迫面接で、無能な自分に愕然とした。
- ・ゼミの友人の一言。「歴史を勉強したなら選挙に行け。」
- ・友達と行った台湾。植民地を研究するきっかけになった。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

友人のステップアップが、「僕も頑張ろう」というモチベーションになります。向上心ある人と友達になること、友達に向上心を与えられる存在になることを心がけてください。そういう人が周りにいなければ、無理に友達を作る必要はありません。そんなことをするぐらいなら、孤独を愛せるようになってください。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

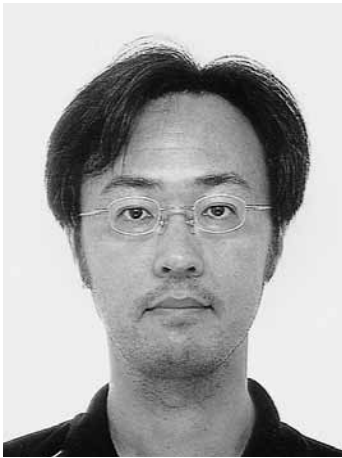
散歩。昨年度から新しい街に住み始めたので。

7. 新入生に一言お願いします。

尚一言すべきは諸君が考ふることなり。

何事をなすにも考ふることなり。

(甲南高校第3周年記念式典で平生鈞三郎が生徒に向かって)



村澤 康友 (むらさわ やすとも)

京都大学経済学部卒、同経済学研究科修士課程修了、
株三菱総合研究所勤務、ペンシルベニア大学経済学
研究科博士課程修了、京都大学経済研究所講師、
大阪府立大学経済学部助教授・教授を経て現職

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

景気の計測

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

会社員時代に景気予測の仕事をしていたから

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

経済学教育の実証研究

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

中国一人旅

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

その後も交友関係が続いているわけではないが、いろんな人といろんなことを本音で語り合って、視野が広がったと思う。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

好きな CD を聞きながら囲碁・将棋の勉強

ケーブル TV の映画チャンネルで映画鑑賞

機械いじり

料理

7. 新入生に一言お願いします。

私も新入教員ですので、どうぞよろしくお願いします。

できれば経済学や統計学を真剣に勉強して頂けると嬉しいです。



森 剛志 (もり たけし)

1970 年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了(博士号取得)。日本学術振興会特別研究員を経て、甲南大学経済学部教員。

主な著書「日本のお金持ち研究」(共著)。

I. 研究部門

1. 先生の研究テーマは何ですか？

家計の経済、労働経済、社会保障

2. そのテーマを研究しようとしたきっかけは何ですか？

これから重要になると思ったから。

3. 今後研究してみたいと思うテーマはありますか？

医療経済、行動経済学

II. 過去部門

4. 大学在学中での一番の思い出は何ですか？

私は、学生時代、タイ・マレーシア・シンガポール・インド・ネパール・アメリカなど世界各地を転々と旅行しました。時間とお金があれば旅をしていました。自分探しをしていたのです。その時に見た、美しい夜空。

5. 大学時代での交友関係はその後の人生においてどのように役立ちましたか？

良き自分の指針になっている。

III. プライベート部門

6. 休日などのフリーな時間は何をされていますか？

家族とすごす。

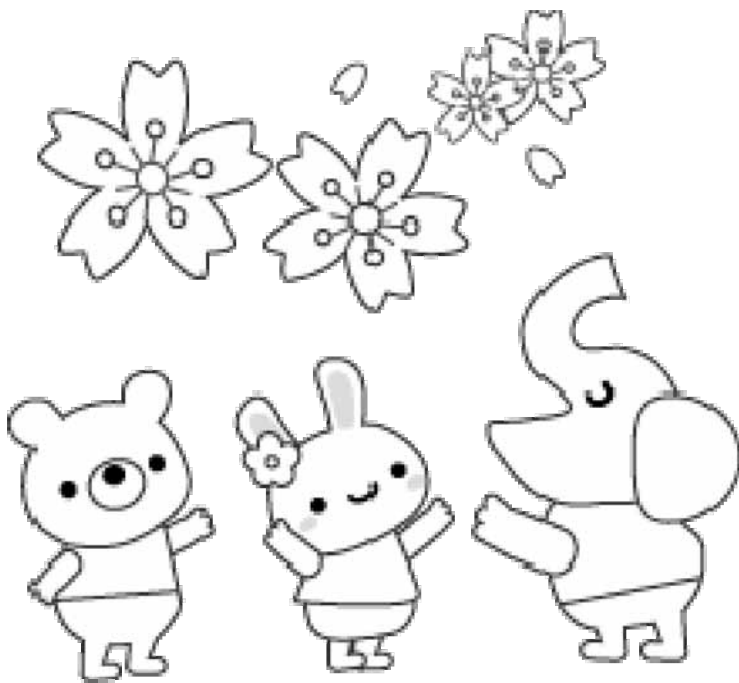
7. 新入生に一言お願いします。

人生では、うまくいかないことがあります。どうしようもないほどの屈辱をうけることもあります。でも、いつも心にバランスを。そして少しの勇気と情熱を！

ハングリーであれ！バカであれ！



新入生への メッセージ



「よく学びよく遊べ」

2014年度卒業

平井ゼミナール 吉村寿豊

経済学部新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。この度は、卒業生から新入生の皆様への伝えたいこととしてエッセイを書かせてみました。稚拙ではありますが、読んでいただければ幸いです。

私はこの四年間、よく学びよく遊んだと感じます。ゼミの活動を積極的に行い、とことん遊びました。この場合の遊びというのは、ただ飲み会をしたりお金を稼ぐためだけにアルバイトに没頭したりという事ではありません。私の趣味は旅行で、国内はほぼ全国を巡りました。そこでは様々な出会いがあり、考えさせられたり学ばされる事もありました。ある時は寝台列車の中で相席となったおじさんに話しかけられて朝方まで話をしたり、富山のお寿司屋に行った際は、これまた地元のおじさんに日本酒を奢られて、お酒に酔いながらも地元の経済や甲南大学の話で弾んだり、地元の大学生との交流もありました。

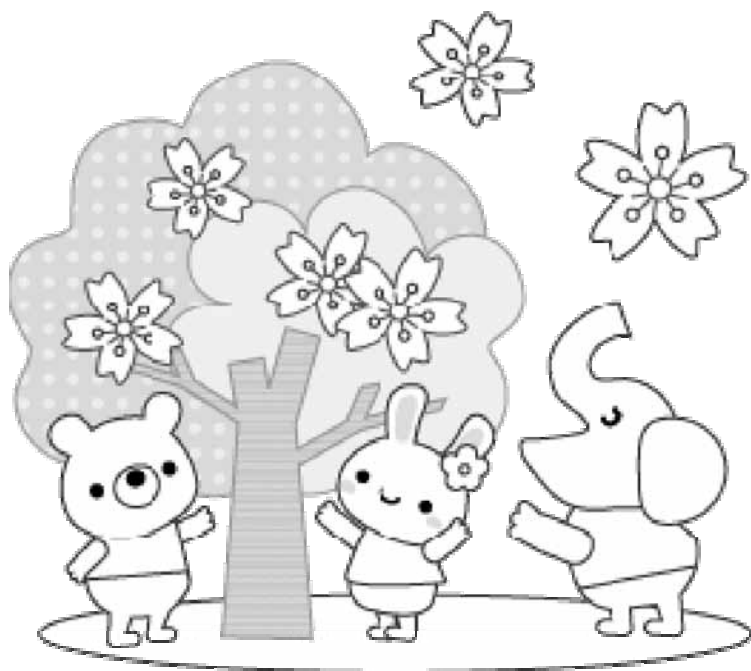
こうした経験や学んだ事は、本やニュースで知り得た情報より自分のものになります。「百聞は一見に如かず」という諺があるように、自分で行動して得たものは確実に実になります。何事においても「経験」から何か一つでも学び得ることが重要であると感じます。

しかしこのような「経験」を活かすためには「学ぶ」事も重要になってきます。経済学という学問の追及や地域社会が抱えている経済や政治の問題に関心がなく、四年間を過ごしてしまったら、大学へ来ている意味がありません。積極的に授業やゼミに参加して、自分自身の知識を身に付けてください。

最後になりましたが、大学の四年間は発見と驚きに満ちています。この四年間を「よく学びよく遊べ」の精神で過ごして下さい。



新入生の みなさんへ





甲南大学経済学会について

経済学会とは？

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。甲南大学経済学部
に入学した皆さんは、同時に「甲南大学経済学会」の会員となりました。**甲南大学経済学会とは専任教員・経済学部学生・大学院学生**で構成されています。経済学会は、経済学部教員・学生と相互にコミュニケーションをとりながら、皆さんがより良い大学生活を送れるように日々活動しています。

新入生の皆さん、ぜひ大いに活用して下さい。

学生評議員・学生スタッフ

それぞれ役職を決めた、学生評議員と学生スタッフが共同で活動しています。先輩・後輩同士でも気軽に会話ができる、とても和やかな雰囲気です。

定期的に評議員会を開きます。この場では教員評議員・学生評議員が企画内容等について意見を交換します。

主な活動内容

・ 総会

毎年5月下旬に開かれます。今年度の活動方針・予算・評議員を決めるための大切な会です。みなさんの意見を聞くことが目的の1つであるので、「経済学会 会員」は原則出席となっています。

・ 講演会

前年度は前期に西宮冷蔵社長の水谷洋一さんを、後期に社会企業家、環境活動家のケンジ・ステファン・スズキさんをお呼びしました。

・ ゼミ紹介（2回生以上対象）

後期から始まるゼミⅠを選択する際の参考になります。参加できなかった人は、コモンルームでビデオを見ることができます。

・ 社会見学

工場・会社に見学へ行きます。現場に足を運ぶからこそ学べるものがたくさんあります。前年度は「雪印メグミルク神戸工場」と「神鋼神戸発電所」へ行きました。経済学部生であれば誰でも参加できます。

・ 経済学部インナーゼミナール大会

ゼミでの研究成果を発表する大会です。甲南大学経済学会で企画・運営する甲南大学経済学会の最大の行事です。

発表は誰でも見ることができます。2回生から本格化する『ゼミ』を知るためにもぜひ参考にして下さい。

経済学会に興味がある、もっと詳しいことが知りたい!!という方は

まずはコモンルームへ！！

5号館5F(5505)へ来てみて下さい。経済学部生専用のポット・電子レンジ・パソコンがあります。

4月は時間割作成に関する質問にもお答えします。コモンルームに在室している評議員・スタッフに気軽に声をかけて下さい。また、HPもご覧下さい。

http://www.konan-u.ac.jp/hp/econ_keizaigakkai/

開室中は常時ドアを開けています。とてもオープンな雰囲気ですので、ぜひ一度経済コモンルームへ!!

経済学会評議員募集！！

経済学会では一回生の新しい評議員を募集しています。

ここでは経済学会会員がよりよい大学生活を過ごすことができるように、会員代表としてさまざまなサポートを行っています。また、数々の行事を開催しています。

評議員に興味がある方、大学に入って何か挑戦してみたい方、何かを企画、運営することが好きな方はぜひ一度気軽に見学にいらしてください。

興味のある方は一度5号館5階にある
経済コモンルームに！

甲 南 大 学 経 済 学 会 会 則

昭和 35 年 2 月 24 日	制定承認
昭和 41 年 12 月 14 日	改正承認
昭和 44 年 10 月 16 日	経済学会集会改正承認
昭和 49 年 5 月 16 日	経済学会総会改正承認
昭和 52 年 5 月 18 日	経済学会総会改正承認
昭和 58 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
平成 2 年 5 月 30 日	経済学会総会改正承認
平成 3 年 5 月 29 日	経済学会総会改正承認
平成 4 年 5 月 27 日	経済学会総会改正承認
平成 6 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
平成 8 年 5 月 29 日	経済学会総会改正承認
平成 9 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 13 年 5 月 30 日	経済学会総会改正承認
平成 15 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 16 年 5 月 26 日	経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日	経済学会総会改正承認

第 1 条 本会は、甲南大学経済学会と称し、事務所を甲南大学経済学部内におく。

第 2 条 本会は、全員加盟を原則とする。甲南大学経済学部の専任教員・学生（EBA 総合コースの学生を除く）・大学院学生・卒業生のうち入会を希望する者、その他本会評議員会において入会を認めた者をもって組織する。会費については以下のとおり。なお、納入した会費は、理由のいかんを問わず返還しない。ただし、学生会員として会費を納めた者で入学を辞退した者についてはこの限りではない。

教 員	年 会 費	5,000 円
学 部 学 生	会 費（在学期間）	20,000 円
大学院学生	会 費（在学期間）	10,000 円

又、卒業生会員の権利および義務については、別に細則を定めるものとする。

第 3 条 本会は、経済学の研究ならびに普及をもって目的とする。

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会
2. 学術講演会
3. 甲南経済学論集および経済学学生論集の発行
4. 学会新聞の発行
5. 研究・教育資料の収集・管理
6. インナーゼミナール大会の開催
7. 専任教員研究書刊行助成
8. その他本会の目的を達成するために必要と認める事項

第 5 条 本会の最高議決機関として総会を置く。本会の予算と決算は総会の承認を得なければならない。総会規程は別に定める。

第 6 条 総会は、本会の事業を運営するために評議員を選出する。評議員会は、経済学部長を含む専任教員 8 名、学生 8 名以上 20 名以下により構成され、任期は 1 年とする。評議員会規程は別に定める。

第 7 条 評議員長は経済学部長が兼任する。評議員長は本会を代表し、総会および評議員会を招集する。

第 8 条 評議員会は互選により次の役員を選出する。

1. 総務委員（教員 1 名学生 1 名ないし 2 名）は、評議員間の連絡・調整にあたり、評議員会の事務を統括するとともに、本会の事業の記録を作成する。
2. 会計委員（教員 1 名学生 1 名ないし 2 名）は、本会の事業経費を管理する。
3. 管財委員（教員 1 名学生 2 名ないし 3 名）は、研究・教育資料の収集を行う。
4. 編集委員（教員 2 名学生 2 名以上）は、甲南経済学論集、経済学学生論集、学会新聞等の定期刊行物の編集・発行にあたる。
5. 企画委員（教員 2 名学生 2 名以上）は、研究会、学術講演会、インナーゼミナール大会、その他本会の目的を達成するための事業を企画する。

なお、評議員会は必要に応じて会員の中から本会の活動に協力する実行委員を委嘱することができる。

第 9 条 評議員会は、本会の事業活動を円滑に行うための諮問・連絡機関としてゼミ委員会を招集することができる。

第 10 条 本会の事業とそれにとまなう予算の執行を厳正・公平たらしめるべく、教員 1 名学生 1 名の監査委員を置く。監査委員は総会において選出され、任期は 1 年とする。

第 11 条 本会の経費は、会費・事業収入・寄付金および甲南大学からの助成金をもってこれにあてる。

第 12 条 本会則は、総会規程第 6 条に基づいて改正することができる。

総 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会制定承認
平成 6 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 総会は、経済学会会員全員によって構成され、その決議はすべてに優先する。
- 第 2 条 原則として毎年 5 月に定期総会がもたれなければならない。
- 第 3 条 評議員長は、次の場合 2 週間以内に臨時総会を招集しなければならない。
1. 評議員会が必要と認めたとき
 2. 経済学部教員 2/3 以上の要求があったとき
 3. 学生会員 50 名以上の要求があったとき
 4. 卒業生会員 50 名以上の要求があったとき
- 第 4 条 総会は、卒業生会員を除く全会員の 1/5 以上の出席により成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。
- 第 5 条 総会の決議は、出席会員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。
- 第 6 条 経済学会会則の改正は、出席会員の 2/3 以上の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

評 議 員 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会制定承認
昭和 52 年 5 月 18 日 経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日 経済学会総会改正承認
平成 22 年 5 月 19 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 評議員会は、経済学会会則に定められた事業の運営を行い、その事業を達成させるために評議員は評議員会に出席するよう努めなければならない。
- 第 2 条 評議員会は、次の事項について総会の承認を得なければならない。
1. 予算および決算
 2. 活動報告
 3. その他評議員会が必要と認めた事項

第3条 評議員長は、原則として毎月1回定期評議員会を招集しなければならない。

第4条 評議員長は、次の場合10日以内に臨時評議員会を招集しなければならない。

1. 評議員長が必要と認めたとき
2. 評議員3名以上が必要と認めたとき
3. 学生会員30名以上の要求があったとき
4. 卒業生会員30名以上の要求があったとき

第5条 評議員会は評議員の過半数をもって成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。

第6条 評議員の決議は、出席評議員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

卒業生会員細則

〔昭和52年5月18日 経済学会総会制定承認
平成20年5月28日 経済学会総会改正承認〕

第1条 甲南大学経済学部卒業生のうち、経済学会への入会を希望する者（以下「卒業生会員」とよぶ）は、氏名、卒業年度、現住所を経済学会評議員会に登録し、「卒業生会員証」の交付を受けるものとする。登録は卒業2ヵ月前からできるものとする。

第2条 経済学会への入会を引き続き希望する者は、毎年1月から3月末までの間に、登録の更新を行わなければならない。なお、卒業生会員は、現住所の変更をすみやかに評議員会に届け出なければならない。

第3条 卒業生会員は、登録またはその更新の際、会費年4,000円を納入しなければならない。ただし、2カ年以上の登録と会費納入を一括して行うことはできる。入会金納入の義務はない。

第4条 卒業生会員は、経済学会すべての事業に参加し、そのサービスを受けることができる。ただし、卒業生会員は、評議員に就任することはできず、また「総会規程」第4条にもとづいて総会での投票権をもたない。

第5条 本細則は、総会の決議によって改正することができる。